

(様式第 10)

獨医大病庶庶第 42 号
令和 3 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 獨協学園
理事長 吉 田 謙一郎

獨協医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 3 4 0 - 0 0 4 2 埼玉県草加市学園町 1 番 1 号
氏 名	学校法人 獨協学園

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

獨協医科大学病院

3 所在の場所

〒 3 2 1 - 0 2 9 3 栃木県下都賀郡壬生町北小林 8 8 0	電話 (0 2 8 2) 8 6 - 1 1 1 1
--	------------------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

○1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、 がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十 以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科	○2 消化器内科
5 神経内科	6 血液内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	○3 循環器内科
	○4 腎臓内科
	7 内分泌内科
	8 代謝内科
	○11 リウマチ科
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
○1呼吸器外科	2消化器外科
5血管外科	○6心臓血管外科
○3乳腺外科	4心臓外科
7内分泌外科	○8小児外科
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○1精神科	○2小児科	○3整形外科	○4脳神経外科	○5皮膚科	○6泌尿器科
○7産婦人科	8産科	9婦人科	○10眼科	11耳鼻咽喉科	
○12放射線科	13放射線診断科	14放射線治療科	○15麻酔科	○16救急科	

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
○1小児歯科	○2矯正歯科
○3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1心臓・血管内科	2血液・腫瘍内科	3内分泌代謝内科	4脳神経内科
5呼吸器・アレルギー科	6形成外科・美容外科	7頭頸部・耳鼻咽喉科	
8リハビリテーション科	9病理診断科		

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
4 2 床	床	床	床	1, 1 5 3 床	1, 1 9 5 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	618人	14.8人	632.8人	看 護 補 助 者	90人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	27人	0.2人	27.2人	理 学 療 法 士	38人	臨床検査技師	92人
薬 剤 師	83人	0人	83人	作 業 療 法 士	10人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	7人	そ の 他	0人
助 産 師	42人	3.3人	45.3人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	978人	58.4人	1036.4人	臨 床 工 学 士	28人	医療社会事業従事者	12人
准 看 護 師	1人	0.8人	1.8人	栄 養 士	0人	その他の技術員	47人
歯科衛生士	5人	1.7人	6.7人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	253人
管理栄養士	10人	0人	10人	診療放射線技師	73人	そ の 他 の 職 員	4人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	30人	眼 科 専 門 医	11人
外 科 専 門 医	36人	耳鼻咽喉科専門医	11人
精 神 科 専 門 医	7人	放射線科専門医	15人
小 児 科 専 門 医	15人	脳神経外科専門医	11人
皮 膚 科 専 門 医	7人	整形外科専門医	17人
泌尿器科専門医	11人	麻 酔 科 専 門 医	14人
産婦人科専門医	13人	救 急 科 専 門 医	12人
		合 計	210人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名(種市 洋) 任命年月日 令和2年4月1日

医療安全管理委員会委員
(令和2年4月1日～令和4年3月31日)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数	888.6人	14.4人	903.0人
1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数	1967.4人	116.5人	2083.8人
1 日 当 たり 平 均 調 剤 数			907.8剤
必要医師数			226人
必要歯科医師数			9人
必要薬剤師数			50人
必要（准）看護師数			564人

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	1,181m ²	鉄筋 コンクリート	病 床 数	17床	心 電 計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] [移動式の場合]	床面積 台 数	436m ² 台	病床数	34床	
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合] [共用室の場合]	床 積 共用する室名	54m ²			
化学検査室	288m ²		(主な設備)	化学・免疫化学複合自動分析装置、免疫自動分析装置、免疫血清自動分析装置、血液ガス分析装置、凝固・線溶自動分析装置等、フロントエンド分注装置、尿定性自動分析装置 等		
細菌検査室	90m ²		(主な設備)	真菌感染症検査分析装置、自動菌液分注装置、微生物同定感受性分析装置、血液培養装置 等		
病理検査室	266m ²		(主な設備)	自動免疫染色装置、感染防止機能付クリオスタット、顕微鏡写真撮影装置、密閉式自動固定包埋装置、自動染色装置、感染防止対策用切出し台、安全キャビネット、クリーンベンチ 等		
病理解剖室	80m ²		(主な設備)	感染防止対策用解剖台、医用写真撮影装置、高圧蒸気滅菌器 等		
研 究 室	21,154m ²		(主な設備)	マルチモードプレートリーダー、4D MV-Assessmentシステム、次世代シーケンサーIon Protonシステム 等		
講 義 室	288m ²		室数	1 室	収容定員	240人
図 書 室	5,894m ²		室数	1 室	蔵 書 数	266,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	71.3%	逆紹介率	52.9%
算出根拠	A：紹介患者の数		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		
	D：初診の患者の数		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に 100 を乗じて小数点以下第 1 位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
十川 康広	上都賀総合病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
菊池 不佐男	菊池法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・ 無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
飯島 一彦	下野新聞社 専務取締役		医療を受ける者の代表者	有・ 無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
美津島 隆	獨協医科大学 リハビリテーション科学 教授		医療に関する学識経験者	有 ・無	その他
久保田 一徳	獨協医科大学病院 放射線部教授		医療に関する学識経験者	有 ・無	その他

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 ホームページにより公開（ https://www.dokkyomed.ac.jp/files/hosp-m/info/02954-006.pdf ）	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
細胞診検体を用いた遺伝子検査	51人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	0 人
FDGを用いたポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影による不明熱の診断・不明熱(画像検査、血液検査及び尿検査により診断が困難なものに限る)	0 人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 固形がん(根治切除が不可能又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る)	5 人
放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のデモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにデモゾロミド内服投与の維持療法 初発の中枢神経原発悪性リンパ腫	0 人
デモゾロミド用量強化療法 膠芽腫	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経カテーテル大動脈弁留置術	取扱患者数	46
当該医療技術の概要			
経カテーテル大動脈弁留置術(Transcatheter Aortic Valve Implantation: TAVI)は、重症の大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル的に生体弁を大動脈弁に留置する治療法であり、開胸術がハイリスクな症例に対して新たな治療の選択肢となっている。			
医療技術名	経皮的僧帽弁接合不全修復術「MitraClip TM 」	取扱患者数	11
当該医療技術の概要			
経皮的僧帽弁接合不全修復術「MitraClip TM 」(以下、マイトクリップ)は、低侵襲性の経皮的僧帽弁接合不全修復システムを用いた重症僧帽弁閉鎖不全症に対する治療法である。マイトクリップにより開胸術がハイリスクである重症僧帽弁閉鎖不全症の新たな治療の選択肢となっている。			
医療技術名	リードレスペースメーカー	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
リードレスペースメーカーは、経カテーテル的に右心室に直接小型のペースメーカーを留置する方法である。経静脈ペースメーカー植え込み術における、リード、あるいは皮下ポケット関連の合併症を克服している。			
医療技術名	植え込み型除細動器(Implantable Cardioverter Defibrillator: ICD)	取扱患者数	35
当該医療技術の概要			
ICDは、心疾患の種類にかかわらず致死性の頻脈性不整脈による心臓突然死を予防し生命予後を改善する、もっとも有効かつ確立された治療法の1つである。最近では皮下植え込み型除細動器(S-ICD)や着型自動除細動器(WCD)も登場してライフスタイルに合わせた治療の選択肢が広がっている。			
医療技術名	心臓再同期療法(Cardiac Resynchronization Therapy: CRT, CRT-D)	取扱患者数	20
当該医療技術の概要			
心臓の伝導障害により、房室間、心室内、あるいは心室間同期不全が心不全の一因として存在する場合、心臓再同期療法は同期不全を解消し、心不全悪化を防止あるいは心機能を向上させ、自覚症状や予後の改善をもたらす治療法である。			
医療技術名	光干渉断層法(OCT)を用いた冠動脈プラーク診断と冠血管形成術	取扱患者数	75
当該医療技術の概要			
光干渉断層法(OCT)により冠動脈プラークの組織性状を診断し、その結果によりバルーン・ステントを選択し、冠血管形成術を行う。こうした方法により冠血管形成術の合併症を予防し、長期予後改善が期待できる。			
医療技術名	血管内視鏡を用いたステント内新生内膜の観察	取扱患者数	8
当該医療技術の概要			
血管内視鏡はステント留置後の新生内膜の性状を直視し、正確に観察することが可能であり、冠血管形成術後の予後予測に重要である。			
医療技術名	血管内超音波法(Intravascular Ultrasound: IVUS)を用いた冠動脈形成術	取扱患者数	504
当該医療技術の概要			
現在IVUSは冠動脈形成術の適応治療戦略決定、至適終了決定に必須なモダリティである。特に我々の使用する近赤外分光法-血管内超音波検査(NIRS-IVUS)は冠動脈形成術後の予後予測に有用である。			
医療技術名	補助循環用ポンプカテーテル(Impella)を用いた心源性ショック治療	取扱患者数	23
当該医療技術の概要			
Impellaは経皮的に左室内に留置可能なポンプカテーテルであり、補助人工心臓と同等の機能を持つ。心負荷軽減と心筋循環改善による心機能改善効果が期待され、短期間であるが経皮的に導入可能であるためショック時の対応が迅速かつ低侵襲に装着可能である。			
医療技術名	内視鏡的胆管結石除去術	取扱患者数	165
当該医療技術の概要			
総胆管結石症に対して結石を除去するため行う内視鏡治療			
医療技術名	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
肝臓癌に対して超音波ガイド下に穿刺し電氣的に焼灼、壊死に至らしめる治療			

医療技術名	炎症性腸疾患に対する血球成分除去療法	取扱患者数	22
当該医療技術の概要			
活動期潰瘍性大腸炎やクローン病患者に対する顆粒球や白血球成分除去療法			
医療技術名	クローン病患者に対するバルーン小腸内視鏡	取扱患者数	12
当該医療技術の概要			
バルーン小腸内視鏡を用いてクローン病の診断や狭窄部治療、治療効果判定を行う			
医療技術名	劇症肝炎に対する血液浄化療法	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
劇症肝炎患者に対して行う血漿交換や血液濾過透析療法			
医療技術名	LCIG持続療法(レボドパ/カルビドパ配合経腸用液持続注入療法)	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
経鼻腔チューブによる試験投与で有効性を確認し、有効性が確認された場合、内視鏡下で胃瘻空腸路を造設し持続注入を開始する。レボドパ血中動態を限りなく安定化させることができるので、運動合併症の軽減が期待出来る。			
医療技術名	経皮的脳血栓回収療法	取扱患者数	30
当該医療技術の概要			
主幹動脈閉塞による急性期脳梗塞に対して特殊なカテーテルデバイスを使用し、血栓を除去する。発症早期で、虚血コアと			
医療技術名	高感度多遺伝子検査システムMINtSによる細胞検体を用いた肺癌遺伝子変異検索	取扱患者数	51
当該医療技術の概要			
細胞検体で遺伝子変異を包括的に検査するシステムで、組織を用いる既承認体外診断検査との一致率を比較し検討する			
医療技術名	気管支鏡検査におけるクライオバイオプシー	取扱患者数	9
当該医療技術の概要			
経気管支鏡に先端が凍結する鉗子を挿入し標的組織を採取することで従来の生検鉗子と比較して病理検体のサイズや深さが大きい検体が採取出来るので病理診断率が上がる。			
医療技術名	早期肺がんに対する気管支鏡下光線力学療法	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
内視鏡的早期肺癌に対して、光感受性物質を静注後、気管支鏡下にレーザー照射を行うことで腫瘍を焼灼して治療を行う。			
医療技術名	修正型電気けいれん療法	取扱患者数	27
当該医療技術の概要			
難治性うつ病患者や難治性統合失調症患者に対して筋弛緩薬によって痙攣を抑制した状態でサイマトロンを用いて頭部にパルス波を入力する			
医療技術名	縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
低肺機能や高齢などの理由により経胸的食道切除が困難な食道癌患者に対して、頸部および食道裂孔からの気縦隔操作によって十分な視野を確保しつつ縦隔郭清を伴う食道切除を行う術式である。			
医療技術名	胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術	取扱患者数	24
当該医療技術の概要			
胸部食道癌患者に対して右側からの胸腔鏡操作により精緻なリンパ節郭清を伴う食道切除が可能である。従来の開胸手術と比較して出血量および呼吸器合併症を有意に減少させている。			
医療技術名	食道癌に対するドセタキセル、シスプラチン、フルオロウラシル(DCF)療法	取扱患者数	32
当該医療技術の概要			
食道扁平上皮癌に対して標準とされているシスプラチン、フルオロウラシル(CF)療法にドセタキセルを加えることで高い抗腫瘍効果を発揮する。一方で有害事象の発現率が非常に高いため、専門施設での適切なマネージメントが必要である。			
医療技術名	食道癌に対するドセタキセル、シスプラチン、フルオロウラシル(DCF)併用放射線療法	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
進行食道扁平上皮癌に対して標準とされているシスプラチン、フルオロウラシル(CF)併用放射線療法にドセタキセルを加えることで高い抗腫瘍効果を発揮する。有害事象も多いため、放射線治療計画を含めた専門施設での適切なマネージメントが必要である。			

医療技術名	肝切除	取扱患者数	89
当該医療技術の概要			
肝細胞癌、転移性肝腫瘍、肝内胆管癌、肝門部領域胆管癌などの疾患に対して、肝亜区域切除や拡大肝切除を施行している。肝門部領域胆管癌などに対して大量肝切除が必要な場合は、術後肝不全予防として、門脈塞栓術を施行している。			
医療技術名	膵頭十二指腸切除(肝切除付加)	取扱患者数	44
当該医療技術の概要			
主に膵頭部癌、遠位部胆管癌、乳頭部癌、十二指腸癌などの疾患に対して施行している。門脈などの脈管侵襲を伴う場合も、血管合併切除や再建も施行している。また、広範囲胆管癌などに対しては、肝切除付加膵頭十二指腸切除も施行している。			
医療技術名	膵体尾部切除	取扱患者数	18
当該医療技術の概要			
主に膵体尾部癌に対して施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下膵体尾部切除	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
主に膵体尾部癌に対して施行している。			
医療技術名	膵全摘術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
主に膵臓癌、膵管内乳頭線癌などの疾患に対して施行している。			
医療技術名	脳死下膵腎同時移植	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
脳死ドナーより摘出・搬送した膵臓腎臓をレシピエントに移植したもの			
医療技術名	生体肝移植	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
生体間での肝移植を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除	取扱患者数	9
当該医療技術の概要			
主に肝細胞癌、転移性肝腫瘍に対して、腹腔鏡下肝外側区域切除、部分切除を施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下結腸切除	取扱患者数	67
当該医療技術の概要			
結腸癌に対して施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下直腸切除	取扱患者数	29
当該医療技術の概要			
直腸がんに対して施行している。			
医療技術名	ロボット支援下直腸切除	取扱患者数	8
当該医療技術の概要			
直腸がんに対して施行している。			
医療技術名	内肛門括約筋切除	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
超低位直腸がんに対して、肛門温存術式を施行している。			
医療技術名	進行直腸癌に対する術前化学放射線療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
本来は肛門を温存することが難しい下部直腸癌に対して術前に化学放射線療法を行うことによって、切除率を向上させるだけでなく、肛門温存率を向上させることが期待できる。			

医療技術名	側方郭清	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
下部直腸癌の側方郭清を腹腔鏡下で施行している。			
医療技術名	腹腔鏡下大腸全摘術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
炎症性腸疾患に対して施行している。			
医療技術名	骨盤内蔵全摘術	取扱患者数	0
当該医療技術の概要			
直腸癌がかなり進行し、骨盤内の臓器（ぼうこう、精のう、前立腺、子宮など）が広く癌に冒された患者さんに対して施行している。			
医療技術名	拡大前頭洞手術	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
通常の内視鏡手術では開放困難な前頭洞病変に対して用いられる手術手技である。			
医療技術名	下咽頭悪性腫瘍手術（頸部、胸部、腹部等の操作による再建を含む）	取扱患者数	7
当該医療技術の概要			
進行下咽頭癌に対して行われる耳鼻咽喉科を代表する大手術である。			
医療技術名	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術	取扱患者数	12
当該医療技術の概要			
下咽頭の表在癌に対して消化器内科と合同で施行する上部消化管内視鏡下の切除術である。			
医療技術名	小児食物アレルギー負荷検査	取扱患者数	300
当該医療技術の概要			
食物アレルギーの診断に有用な検査法である			
医療技術名	重症気管支喘息の生物学的製剤導入	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
重症気管支喘息に対する治療			
医療技術名	重症アトピー性皮膚炎の生物学的製剤の導入	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
重症アトピー性皮膚炎治療に対する治療			
医療技術名	若年性特発性関節炎の生物学的製剤の導入	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
重症若年性特発性関節炎に対する治療			
医療技術名	炎症性腸疾患の生物学的製剤の導入	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
重症炎症性腸疾患に対する治療			
医療技術名	高安動脈炎に対する生物学的製剤の導入	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
重症高安動脈炎に対する治療			
医療技術名	在宅経肛門的自己洗腸指導管理科	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
先天性二分脊椎症の排便管理のため、有用な手技治療法である			

医療技術名	新生児仮死に対する低体温療法	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
重度の新生児仮死児に対して冷却器で体温を34℃に下げ、3日間管理する。			
医療技術名	新生児遷延性肺高血圧に対する一酸化窒素吸入療法	取扱患者数	10
当該医療技術の概要			
新生児遷延性肺高血圧に対してレスピレーターから一酸化窒素を持続吸入する。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
再発・難治性急性骨髄性白血病2例に対しHLA一致同胞をドナーとする、難治性T細胞型急性リンパ性白血病に対し骨髄バンクを利用した非血縁者間造血幹細胞移植を行った。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	後縦靱帯骨化症	61
2	筋萎縮性側索硬化症	32	57	広範脊柱管狭窄症	5
3	脊髄性筋萎縮症	6	58	特発性大腿骨頭壊死症	34
4	進行性核上性麻痺	29	59	下垂体性ADH分泌異常症	14
5	パーキンソン病	351	60	下垂体性TSH分泌亢進症	2
6	大脳皮質基底核変性症	9	61	下垂体性PRL分泌亢進症	9
7	ハンチントン病	5	62	クッシング病	4
8	シャルコー・マリー・トウー	8	63	下垂体性成長ホルモン分泌亢進	29
9	重症筋無力症	112	64	下垂体前葉機能低下症	96
10	先天性筋無力症候群	1	65	甲状腺ホルモン不応症	1
11	多発性硬化症／視神経	83	66	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
12	慢性炎症性脱髄性多発	21	67	アジソン病	4
13	封入体筋炎	2	68	サルコイドーシス	114
14	クロー・深瀬症候群	1	69	特発性間質性肺炎	81
15	多系統萎縮症	51	70	肺動脈性肺高血圧症	28
16	脊髄小脳変性症(多系統	57	71	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	27
17	ライソゾーム病	8	72	リンパ脈管筋腫症	5
18	ミトコンドリア病	2	73	網膜色素変性症	32
19	もやもや病	25	74	バッド・キアリ症候群	1
20	亜急性硬化性全脳炎	3	75	特発性門脈圧亢進症	1
21	特発性基底核石灰化症	1	76	原発性胆汁性肝硬変	17
22	全身性アミロイドーシス	5	77	原発性硬化性胆管炎	2
23	遠位型ミオパチー	2	78	自己免疫性肝炎	5
24	神経線維腫症	32	79	クローン病	167
25	天疱瘡	16	80	潰瘍性大腸炎	372
26	表皮水疱症	1	81	好酸球性消化管疾患	15
27	膿疱性乾癬(汎発型)	9	82	先天性ミオパチー	4
28	スティーヴンス・ジョンソ	2	83	マリネスコ・シェーグレン症候群	1
29	高安動脈炎	32	84	筋ジストロフィー	27
30	巨細胞性動脈炎	16	85	遺伝性周期性四肢麻痺	1
31	結節性多発動脈炎	7	86	脊髄空洞症	5
32	顕微鏡的多発血管炎	50	87	神経軸索スフェロイド形成を伴う	1
33	多発血管炎性肉芽腫症	14	88	前頭側頭葉変性症	2
34	好酸球性多発血管炎性	18	89	先天性無痛無汗症	1
35	悪性関節リウマチ	3	90	中隔視神経形成異常症/ドモル	1
36	バージャー病	3	91	海馬硬化を伴う内側側頭葉てん	1
37	原発性抗リン脂質抗体症	9	92	レノックス・ガストー症候群	1
38	全身性エリテマトーデス	304	93	結節性硬化症	3
39	皮膚筋炎／多発性筋炎	144	94	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を	18
40	全身性強皮症	172	95	特発性後天性全身性無汗症	10
41	混合性結合組織病	46	96	マルファン症候群	4
42	シェーグレン症候群	138	97	ウィルソン病	4
43	成人スチル病	21	98	無脾症候群	1
44	再発性多発軟骨炎	5	99	プラダー・ウィリ症候群	1
45	ベーチェット病	96	100	完全大血管転位症	1
46	特発性拡張型心筋症	95	101	両大血管右室起始症	1
47	肥大型心筋症	11	102	アルポート症候群	1
48	再生不良性貧血	40	103	急速進行性糸球体腎炎	4
49	自己免疫性溶血性貧血	4	104	抗糸球体基底膜腎炎	1
50	発作性夜間ヘモグロビン	2	105	一次性ネフローゼ症候群	28
51	特発性血小板減少性紫	64	106	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
52	原発性免疫不全症候群	9	107	紫斑病性腎炎	3
53	IgA 腎症	20	108	間質性膀胱炎(ハンナ型)	12
54	多発性嚢胞腎	30	109	閉塞性細気管支炎	2
55	黄色靱帯骨化症	6	110	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先	2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	副甲状腺機能低下症	2	161		
112	シトステロール血症	2	162		
113	家族性地中海熱	1	163		
114	強直性脊椎炎	5	164		
115	骨形成不全症	1	165		
116	リンパ管腫症/ゴーハム	1	166		
117	巨大静脈奇形(頸部口腔)	1	167		
118	クリッペル・トレノネー・	1	168		
119	後天性赤芽球癆	3	169		
120	エプスタイン症候群	2	170		
121	クロンカイト・カナダ症候	1	171		
122	遺伝性膀胱炎	1	172		
123	嚢胞性線維症	1	173		
124	IgG4関連疾患	17	174		
125	黄斑ジストロフィー	2	175		
126	若年発症型両側性感音	1	176		
127	好酸球性副鼻腔炎	184	177		
128	先天異常症候群	1	178		
129	無虹彩症	1	179		
130			180		
131			181		
132			182		
133			183		
134			184		
135			185		
136			186		
137			187		
138			188		
139			189		
140			190		
141			191		
142			192		
143			193		
144			194		
145			195		
146			196		
147			197		
148			198		
149			199		
150			200		
151			201		
152			202		
153			203		
154			204		
155			205		
156			206		
157			207		
158			208		
159			209		
160			210		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・オンライン診療料 ・(頭痛患者に対して算定する場合を含む)	・病棟薬剤業務2
・特定機能病院入院基本料 ・(一般病棟 7対1入院基本料)(精神病棟 13対1入院基本料)	・データ提出加算 ・(データ提出加算2のイ)
・救急医療管理加算	・入退院支援加算(入退院支援加算1のイ) ・入院時支援加算
・超急性期脳卒中加算	・認知症ケア加算1
・診療録管理体制加算1	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・医師事務作業補助体制加算1(30対1補助体制加算)	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算(25対1補助体制加算)(看護補助者5割以上)夜間100対1急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算	・精神科急性期医師配置加算
・看護職員夜間配置加算 ・(看護職員夜間12対1配置加算1)	・排尿自立支援加算
・療養環境加算	・地域医療体制確保加算
・重症者等療養環境特別加算	・救命救急入院料3 救急体制充実加算1
・無菌治療室管理加算1	・救命救急入院料4救急体制充実加算1
・無菌治療室管理加算2	・特定集中治療室管理料3・小児加算
・緩和ケア診療加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・精神科身体合併症管理加算	・総合周産期特定集中治療室管理料 (母体・胎児集中治療室管理料)(新生児集中治療室管理料)
・精神科リエゾンチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・小児入院医療管理料1・プレイルーム加算
・栄養サポートチーム加算	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・医療安全対策加算1	・歯科外来診療環境体制加算2
・感染防止対策加算1感染防止対策地域連携加算・抗菌薬適正使用支援加算	・歯科診療特別対応連携加算
・患者サポート体制充実加算	・入院時食事療養費(Ⅰ)
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	
・後発医薬品使用体制加算1	
・病棟薬剤業務1	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・糖尿病合併症管理料	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・治療的角膜切除術(エキシマレーザーによるもの(角膜ジストロフィー又は带状角膜変性に係るものに限る。))
・がん患者指導管理料イ	・角膜移植術(内皮移植加算)
・がん患者指導管理料ロ	・羊膜移植術
・がん患者指導管理料ハ	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・外来緩和ケア管理料	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・糖尿病透析予防指導管理料	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)
・小児運動器疾患指導管理料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・婦人科特定疾患治療管理料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・腎代替療法指導管理料	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・外来放射線照射診療料	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・ニコチン依存症管理料	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・がん治療連携計画策定料	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除及び肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・外来排尿自立指導料	・同種死体肺移植術
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・生体部分肺移植術
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・薬剤管理指導料	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・医療機器安全管理料1	・胸腔鏡下弁形成術
・医療機器安全管理料2	・経カテーテル大動脈弁置換術
・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護指導料の注2	・胸腔鏡下弁置換術
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算	・経皮的中隔心筋焼灼術
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・在宅経肛門の自己洗腸指導管理料	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・経皮的僧帽弁クリップ術
・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術

・ 遺伝学的検査	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)
・ 骨髄微小残存病変量測定	・ 大動脈バルーンパンピング法 (IABP法)
・ BRCA1/2遺伝子検査 ・ 腫瘍細胞を検体とするもの・血液を検体とするもの	・ 経皮的循環補助法 (ポンプカテーテルを用いたもの)
・ ガンゲノムプロファイリング検査	・ 補助人工心臓
・ 先天性代謝異常症検査	・ 植込型補助人工心臓 (非拍動流型)
・ HPV核酸検出及びHPV核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)	・ 経皮的下肢動脈形成術
・ 抗HLA抗体 (スクリーニング検査) 及び抗HLA抗体 (抗体特異性同定検査)	・ 腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等
・ ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	・ 腹腔鏡下十二指腸局所切除術 (内視鏡処置を併施するもの)
・ 検体検査管理加算 (I)	・ 腹腔鏡下胃切除術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 検体検査管理加算 (IV)	・ 腹腔鏡下噴門側胃切除術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 国際標準検査管理加算	・ 腹腔鏡下胃縮小術 (スリーブ状切除によるもの)
・ 遺伝カウンセリング加算	・ 腹腔鏡下胃全摘術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・ 胆管悪性腫瘍手術 (膵頭十二指腸切除及び肝切除 (葉以上) を伴うものに限る。)
・ 胎児心エコー法	・ 体外衝撃波胆石破碎術
・ ヘッドアップティルト試験	・ 腹腔鏡下肝切除術 (部分切除及び外側区域切除) (亜区域切除、1区域切除 (外側区域切除を除く)、2区域切除及び3区域切除以上のもの)
・ 長期継続頭蓋内脳波検査	・ 生体部分肝移植術
・ 脳波検査判断料1	・ 体外衝撃波膵石破碎術
・ 単線維筋電図	・ 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・ 神経学的検査	・ 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・ 補聴器適合検査	・ 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・ 全視野精密網膜電図	・ 腹腔鏡下直腸切除・切断術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ ロービジョン検査判断料	・ 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・ コンタクトレンズ検査料1	・ 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ 小児食物アレルギー負荷検査	・ 同種死体腎移植術
・ 内服・点滴誘発試験	・ 生体腎移植術
・ 画像診断管理加算1	・ 膀胱水圧拡張術
・ ポジトロン断層撮影	・ 人工尿道括約筋植込・置換術
・ ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・ 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・ CT撮影及びMRI撮影	・ 腹腔鏡下仙骨腫固定術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ 冠動脈CT撮影加算	・ 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がんに対して内視鏡支援機器を用いる場合)
・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・ 手術の通則の第19号に掲げる手術 (子宮附属器腫瘍摘出術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群の患者に対して行う手術))
・ 外来化学療法加算1	・ 胎児胸腔・羊水腔シャント術
・ 連携充実加算	・ 医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・ 無菌製剤処理料	・ 輸血管理料Ⅱ
・ 心大血管疾患リハビリテーション料 (I)	・ 貯血式自己血輸血管理体制加算

・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・摂食機能療法の注3に規定する摂食嚥下支援加算	・麻酔管理料(Ⅱ)
・がん患者リハビリテーション料	・放射線治療専任加算
・集団コミュニケーション療法料	・外来放射線治療加算
・経頭蓋磁気刺激療法	・高エネルギー放射線治療
・救急患者精神科継続支援料	・1回線量増加加算
・認知療法・認知行動療法1	・強度変調放射線治療(IMRT)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・医療保護入院等診療料	・体外照射呼吸性移動対策加算
・静脈圧迫処置	・定位放射線治療
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・画像誘導密封小線源治療加算
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・病理診断管理加算2
・人工腎臓	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・導入期加算1	・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・医療機器安全管理料(歯科)
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・精密触覚機能検査
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・歯科口腔リハビリテーション料2
・心不全に対する遠赤外線温熱療法	・手術用顕微鏡加算
・磁気による膀胱等刺激法	・CAD/CAM冠
・センチネルリンパ節加算	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・皮膚移植術(死体)	・歯周組織再生誘導手術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・歯根端切除手術の注3
・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・歯科麻酔管理料
・椎間板内酸素注入療法	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・歯科矯正診断料
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	○1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	令和2年度 :CPC 5回 症例検討会 80回 計85回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 19例 / 剖検率 3.1%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1. 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Muse細胞を用いた急性心筋炎の病態解明および新規治療法確立	井上 晃男	内科学(心臓・血管/循環器)	2,900,000	補委 日本学術振興会
閉経期女性冠動脈疾患患者のエクオール摂取の有用性	阿部 七郎	内科学(心臓・血管/循環器)	600,000	補委 日本学術振興会
高齢心不全患者に和温療法を用いた認知機能・筋力改善効果と分子的機序の解明	豊田 茂	内科学(心臓・血管/循環器)	300,000	補委 日本学術振興会
RUNX1-EVI1型白血病の分子病態の解明と分子標的療法の開発	三谷 絹子	内科学(血液・腫瘍)	1,000,000	補委 日本学術振興会
ヘルペスウイルス再活性化による抗腫瘍効果の機序とその最適化点の解明	瀬尾 幸子	内科学(血液・腫瘍)	500,000	補委 日本学術振興会
白色脂肪の褐色化と糖代謝制御におけるMAIT細胞の役割に関する研究	薄井 勲	内科学(内分泌代謝)	1,600,000	補委 日本学術振興会
糖尿病性心筋障害に対する糖尿病治療薬の影響に関する基礎的検討	城島 輝雄	内科学(内分泌代謝)	1,000,000	補委 日本学術振興会
新たな2型糖尿病腎線維化モデルの開発および解析から迫る糖尿病腎症病態	水沼 有威子	内科学(内分泌代謝)	1,000,000	補委 日本学術振興会
共培養モデルにおける肺線維症の病態解明とプラズマローゲンによる治療可能性の検討	中村 祐介	内科学(呼吸器・アレルギー)	1,000,000	補委 日本学術振興会
TFH細胞機能制御を利用した全身性エリテマトーデスの治療法開発に関する基盤的研究	倉沢 和宏	内科学(リウマチ・膠原病)	900,000	補委 日本学術振興会
腸管神経系と免疫系の相互作用による関節リウマチの病態制御機構の解明と新規治療開発	前澤 玲華	内科学(リウマチ・膠原病)	1,200,000	補委 日本学術振興会
TFH細胞機能制御を利用した自己免疫性間質性肺炎の治療法開発に関する基盤的研究	新井 聡子	内科学(リウマチ・膠原病)	900,000	補委 日本学術振興会
心拍変動・瞬時心拍変動に着目した向精神薬による精神疾患患者の突然死予防戦略	岡安 寛明	精神神経医学	500,000	補委 日本学術振興会
CYP遺伝子多型に焦点をあてたベンラファキシンの薬物動態解析	佐々木 はづき	精神神経医学	900,000	補委 日本学術振興会
ガドリニウム刺激による皮膚線維芽細胞のリプログラミングの可能性	林 周次郎	皮膚科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
乾癬におけるMAIT細胞の機能解析	石井 英輔	皮膚科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
非培養自己ヒト皮下脂肪組織由来再生幹細胞を用いた便失禁治療の開発	石塚 満	第二外科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
大腸癌における癌関連線維芽細胞に基づく抗がん剤治療効果予測システムの開発	清水 崇行	第二外科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
HMG-CoA還元酵素を標的とした胸腺癌に対する新たな治療戦略の構築	千田 雅之	呼吸器外科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
ミスマッチ修復欠損神経膠腫細胞に対するTMZ抵抗性を克服する新治療の開発	樋口 芙未	脳神経外科学	800,000	補委 日本学術振興会
腎細胞癌におけるエネルギー代謝異常とがん免疫回避機構の分子細胞学的な解析	釜井 隆男	泌尿器科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
酸化・窒素化ストレスによる嗅粘膜分泌異常への関与―気道リモデリングの嗅粘膜障害	春名 眞一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	200,000	補委 日本学術振興会
看護必要度から解析する転倒リスク・パラメーター作成に関する基礎的検討	尾林 聡	産科婦人科学	800,000	補委 日本学術振興会
バイアスアゴニズムを利用したオピオイドの副作用及び耐性回復に関する研究	國分 伸一	麻酔科学	3,100,000	補委 日本学術振興会
骨髄幹細胞由来高悪性度口腔扁平上皮癌発生機序の解明と臨床的意義	川又 均	口腔外科学	600,000	補委 日本学術振興会
プロテアーゼインヒビターによる口腔がん細胞の浸潤機構の解明	小宮山 雄介	口腔外科学	900,000	補委 日本学術振興会

小計20件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
三叉神経損傷によって惹き起こされる大脳皮質神経回路の可塑的変化の神経メカニズム	坐間 学	口腔外科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
口腔癌治療における制御性T細胞の変動解析と分子標的薬の効果的な適用法の探索	福本 正知	口腔外科学	1,100,000	補委 日本学術振興会
胎児発育不全における血圧情報を付加した胎児循環病態解析	宮下 進	総合周産期母子医療センター	800,000	補委 日本学術振興会
再生医療技術を応用した新たながん画像診断法及び治療法の開発に関する研究	中神 佳宏	PETセンター	1,100,000	補委 日本学術振興会
間質性膀胱炎の分子生物学的観点からの病態解明	加賀 勘家	排泄機能センター	300,000	補委 日本学術振興会
サルコペニア対策としての物理的刺激を応用したリハビリ法の開発と分子的機序の解明	中島 敏明	医学部	2,400,000	補委 日本学術振興会
咽喉頭・喉頭・気管狭窄症診療ガイドライン作成を目指したエビデンス創出研究	平林 秀幸	医学部	390,000	補委 AMED
在宅心不全患者の再入院を回避する革新的ICT遠隔モニタリング環境の有用性の検証	井上 晃男	医学部	6,328,660	補委 AMED
特発性造血障害に関する調査研究	三谷 絹子	内科学(血液・腫瘍)	13,200,000	補委 厚生労働省
造血器腫瘍における遺伝子パネル検査の提供体制構築およびガイドライン作成	三谷 絹子	内科学(血液・腫瘍)	500,000	補委 厚生労働省
眼内悪性リンパ腫に対するブルトンキナーゼ阻害剤を用いた中枢再発予防法による医師主導多施設共同治験	瀬尾 幸子	内科学(血液・腫瘍)	288,600	補委 AMED
高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法法の標準治療確立のための研究	仁保 誠治	内科学(呼吸器・アレルギー)	520,000	補委 AMED
EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブまたはオシメルチニブ単剤療法とゲフィチニブまたはオシメルチニブにシスプラチン+ベボレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験	仁保 誠治	内科学(呼吸器・アレルギー)	1,300,000	補委 AMED
精神医療分野における治療の質を評価するQIとその向上をもたらす介入技法の開発と実用性の検証	古郡 規雄	精神神経医学	260,000	補委 AMED
治療抵抗性統合失調症薬の安全性の検証による望ましい普及と体制構築に向けた研究	古郡 規雄	精神神経医学	660,000	補委 厚生労働省
認知症介護者のためのインターネットを用いた自己学習および支援プログラムの開発と有効性の検証	菅原 典夫	精神神経医学	800,000	補委 厚生労働省
医療AIの研究開発・実践に伴う倫理的・法的・社会的課題に関する研究	菅原 典夫	精神神経医学	150,000	補委 厚生労働省
精神疾患患者の身体リスク管理を行う上で必要な手順書の作成	古郡 規雄	精神神経医学	代表者一括計上	補委 厚生労働省
小児からAYA世代頭蓋外胚細胞腫瘍の治療毒性低減を目指した国際共同臨床試験	佐藤 雄也	小児科学	260,000	補委 AMED
B型肝炎に関する病態生理の新たな解明に基づく制御法開発	青木 琢	第二外科学	3,000,000	補委 AMED
非造影拍動追跡型4D Flow MRI解析システムの開発・海外展開	福田 宏嗣	心臓・血管外科学	300,000	補委 AMED
後縦靱帯骨化症患者レジストリの構築	種市 洋	整形外科	910,000	補委 AMED
脊柱靱帯骨化症に関する調査研究	種市 洋	整形外科	250,000	補委 厚生労働省
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の原因となる難病の診療向上に向けた、疾患横断的な全国多施設レジストリ研究	深美 悟	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	260,000	補委 AMED
医療用麻薬の乱用リスク要因の分析と適正使用促進のための研究	山口 重樹	麻酔科学	4,800,000	補委 厚生労働省
慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	山口 重樹	麻酔科学	5,000,000	補委 厚生労働省
可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	植木 敬介	総合がん診療センター	260,000	補委 AMED
子宮内膜症異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメトホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	香坂 信明	産科婦人科学	97,500	補委 AMED
重症気管支喘息患者の生物学的製剤の有効性を予測するバイオマーカーの探索	吉原 重美	小児科学	代表者一括計上	補委 AMED
就労女性のライフコースにおける女性特有の健康問題についての疫学研究	尾林 聡	産科婦人科学	代表者一括計上	補委 AMED
間質性膀胱炎の患者登録と診療ガイドラインに関する研究	山西 友典	排泄機能センター	代表者一括計上	補委 厚生労働省

小計20件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
献体による効果的医療技術教育システムの普及促進に関する研究	種市 洋	整形外科	代表者一括計上	補 委	厚生労働省
全国がん登録の利活用に向けた学会研究体制の整備とその試行、臨床データベースに基づく臨床研究の推進、及び国民への研究情報提供の在り方に関する研究	千田 雅之	呼吸器外科学	代表者一括計上	補 委	厚生労働省
糖尿病神経障害・糖尿病足病変の診断ガイドラインならびに管理法の確立	麻生 好正	内科学(内分泌代謝)	代表者一括計上	補 委	厚生労働省

小計20件

合計60件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Tajima E, Sakuma M, Tokoi S, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	The comparison of endothelial function between conduit artery and microvasculature in patients with coronary artery disease.	Cardiol J 2020; 27(1): 38-46.	Original Article
2	Watahiki M, Horinaka S, Ishimitsu T, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Comparing the heart-thigh and thigh-ankle arteries with the heart-ankle arterial segment for arterial stiffness Measurements.	Vasc Health Risk Manag. 2020 Dec 17;16:561-570.	Original Article
3	Hirose S, Nakajima T, Nozawa N, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Phase angle as an indicator of sarcopenia, malnutrition, and cachexia in inpatients with cardiovascular diseases.	J Clin Med. 2020 Aug 6;9(8):2554.	Original Article
4	Toyoda S, Sakuma M, Abe S, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Prediction of long- term outcomes in ST-elevation myocardial infarction and non- ST elevation myocardial infarction with and without creatinine kinase elevation- post-hoc analysis of the J-MINUET	J Clin Med 2020 Aug 18;9(8):2667	Original Article
5	Waku R, Tokoi S, Toyoda S, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Flow-mediated vasodilation and reactive hyperemia index in heart failure with reduced or preserved ejection fraction.	Tohoku J Exp Med. 2020 Sep;252(1):85-93.	Original Article
6	Yasuda T, Toyoda S, Inoue T, Nakajima T.	心臓・血管内科/循環器内科	Muscle thickness of anterior mid-thigh in hospitalized patients: Comparison of supine and standing postures.	Arch Rehabil Res Clin Transl 2020 Jun 1;2(3):100063.	Original Article

7	Arikawa T, Nakajima T, Yazawa H, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Clinical usefulness of new R-R interval analysis using the wearable heart rate sensor WHS-1 to identify obstructive sleep apnea: OSA and RRI analysis using a wearable heartbeat sensor.	J Clin Med 2020 Oct 20;9(10):3359.	Original Article
8	Toyoda S, Tokoi S, Takekawa H, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Relationship between brachial flow-mediated dilation and carotid intima-media thickness in patients with coronary artery disease.	Int Angiol.2020 Oct;39(5):433-442.	Original Article
9	Yazawa H, Fukuda T, Kaneda H, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Association of serum growth differentiation factor-15 with eGFR and hemoglobin in healthy older females.	Int J Cardiol Heart Vasc 2020 Oct 21;31:100651	Original Article
10	Kono K, Abe S, Yamamoto M, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Vascular endothelial dysfunction and autonomic nervous hyperactivity among premenopausal women with cold-sensitivity constitution (Hiesho).	Tohoku J Exp Med 2021 Jan;253(1):51-60.	Original Article
11	Hashimoto R, Numasawa Y, Yokokura S, et al.	心臓・血管内科/循環器内科	Prevalence of the Academic Research Consortium high bleeding risk criteria in patients undergoing endovascular therapy for peripheral artery disease in lower extremities.	Heart Vessels 2021 Sep;36(9):1350-1358.	Original Article
12	Yamamiya A, Irisawa A, Tominaga K, et al.	消化器内科	Interobserver Reliability of the Endoscopic Ultrasound Criteria for the Diagnosis of Early Chronic Pancreatitis: Comparison between the 2009 and 2019 Japanese Diagnostic Criteria	Diagnostics (Basel).2021 Mar 3;11(3):431.	Original Article

13	Izawa N, Tsuchida K, Tominaga K, et al.	消化器内科	Factors Affecting Technical Difficulty in Balloon Enteroscopy-Assisted Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography in Patients with Surgically Altered Anatomy	J Clin Med. 2021 Mar 6;10(5):1100.	Original Article
14	Yamabe A, Irisawa A, Kunogi Y, et al.	消化器内科	Development of biliary stent applying the antibacterial activity of silver: A literature review	Biomed Mater Eng. 2021 Feb; 32: 63-71.	Review
15	Tominaga K, Sugaya T, Tanaka T, et al.	消化器内科	Thiopurines: Recent Topics and Their Role in the Treatment of Inflammatory Bowel Diseases	Front Pharmacol. 2021 Jan; 11: 582291 (オンライン).	Review
16	Iijima M, Arisaka T, Yamamiya A, et al.	消化器内科	Feasibility and Safety of Transjugular Liver Biopsy for Japanese Patients with Chronic Liver Diseases	Diagnostics (Basel). 2021 Jan; 11: 131.	Original Article
17	Nagashima K, Irisawa A, Tominaga K, et al.	消化器内科	The Role of Endoscopic Ultrasound for Esophageal Varices	Diagnostics (Basel). 2020 Nov; 10: 1007.	Review
18	Yamamiya A, Irisawa A, Kashima K, et al.	消化器内科	Interobserver Reliability of Endoscopic Ultrasonography: Literature Review	Diagnostics (Basel). 2020 Nov; 10: 953.	Review
19	Tominaga K, Kanazawa M, Tanaka T, et al.	消化器内科	A Case of Lung Abscess Caused by Double Immunosuppressive Therapy to Treat Ulcerative Colitis	Medicina (Kaunas). 2020 Nov; 56 :595.	Case report
20	Tanaka T, Sugaya T, Tominaga K, et al.	消化器内科	Gastric Dieulafoy's lesion with subepithelial lesion-like morphology	Clin J Gastroenterol. 2021 Feb; 14: 71-75.	Case report

21	Inaba Y, Izawa N, Ishikawa M, et al.	消化器内科	Huge Amoebic Liver Abscess in the Left Lobe Treated by Oral Administration of Metronidazole	Intern Med. 2020 Dec; 59: 3023-3026.	Case report
22	Yamabe A, Irisawa A, Wakabayashi H, et al.	消化器内科	Ceftriaxone-associated Pseudolithiasis in the Gallbladder and Bile Duct of an Elderly Patient	Intern Med. 2020 Nov; 59: 2725-2728.	Case report
23	Tominaga K, Masuyama H, Kanazawa M, et al.	消化器内科	Multiple colorectal xanthomas in an asymptomatic patient	Pol Arch Intern Med. 2020 Oct; 130: 901-902.	Case report
24	Yamamiya A, Kitamura K, Yoshida H, et al.	消化器内科	Prediction of the progression of walled-off necrosis in patients with acute pancreatitis on whole pancreatic perfusion CT	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2020 Oct; 27: 739-746.	Original Article
25	Yamamiya A, Irisawa A, Tsuchida K, et al.	消化器内科	Endoscopic narrow-band imaging for the diagnostic workup of intraductal papillary mucinous neoplasm with duodenal fistula	Pol Arch Intern Med. 2020 Jun; 130: 544-545.	Case report
26	Kanazawa M, Sugaya T, Takahashi F, et al.	消化器内科	A Case of Bilateral Acute Inferior Limb Ischemia in a Patient With Ulcerative Colitis	Clin Med Insights Case Rep. 2020 Mar; 13:1179547620912734 (オンライン).	Case report
27	Irisawa A, Shibukawa G, Hoshi K, et al.	消化器内科	Endoscopic ultrasound-guided coil deployment with sclerotherapy for isolated gastric varices: Case series of feasibility, safety, and long-term follow-up	Dig Endosc. 2020 Nov; 32: 1100-1104.	Case report
28	Yamabe A, Irisawa A, Bhutani MS, et al.	消化器内科	Validity of Endoscopic Ultrasound Findings of Chronic Pancreatitis: Evaluation from the Viewpoint of Disease Risk Factors	Digestion. 2021 Feb; 102: 289-297.	Original Article

29	Nagashima K, Ijima M, Kimura K, et al.	消化器内科	Does the Use of Low Osmolality Contrast Medium Reduce the Frequency of Post-Endoscopic Retrograde Cholangiopancreatography Pancreatitis: A Comparative Study between Use of Low and High Osmolality Contrast Media	Digestion. 2021 Feb; 102: 283-288.	Original Article
30	Tominaga K, Kanazawa M, Takenaka K, et al.	消化器内科	Multiple esophageal ulcers due to tofacitinib 10 mg twice daily for ulcerative colitis	Clin J Gastroenterol. 2020 Jun 13; 340-343.	Case report
31	Irisawa A, Miyoshi H, Itoi T, et al.	消化器内科	Recent innovations in therapeutic endoscopy for pancreatobiliary diseases	Dig Endosc. 2020 Mar 32; 309-315.	Review
32	Irisawa A, Furuta T, Matsumoto T, et al.	消化器内科	Gastrointestinal endoscopy in the era of the acute pandemic of coronavirus disease 2019: Recommendations by Japan Gastroenterological Endoscopy Society (Issued on April 9th, 2020)	Dig Endosc. 2020 Jul; 32:648-650.	Review
33	Yamamiya A, Kanazawa M, Tominaga K, et al.	消化器内科	A Rare Case of Duodenal Metastasis from Anaplastic Carcinoma of the Pancreas	J Pancreas. 2020 Jun; 21: 68-71.	Case report
34	Yamamiya A, Irisawa A	消化器内科	Usefulness of post-endoscopic retrograde cholangiopancreatography pancreatitis prevention by high dose rectal indomethacin	Dig Med Res. 2020 Dec; 3: 86 (オンライン).	Letter

35	Fumi Nakamura, Honoka Arai, Katsuya Tokita, et al.	血液・腫瘍内科	PECAM is an effective and safe anthracycline- containing third-line regimen for patients with relapsed or refractory non- Hodgkin lymphoma	Leuk Lymphoma . 2021 Jan;62(1):239- 242.	Letter
36	Yoshio Iwashima, Tetsuya Fukuda, Takeshi Horio, et al.	腎臓・高血圧内科	Impact of percutaneous revascularization on left ventricular mass and its relationship to outcome in hypertensive patients with renal artery stenosis.	Am J Hypertens 2020 May 21;33(6):570-580	Original Article
37	Iwashima Y, Ishimitsu T	腎臓・高血圧内科	How should we define appropriate patients for percutaneous transluminal renal angioplasty treatment?	Hypertens Res 2020 Oct;43(10):1015-1027	Original Article
38	Hirao J, Tojo A, Hatakeyama S, et al.	腎臓・高血圧内科	V-ATPase blockade reduces renal gluconeogenesis and improves insulin secretion in type 2 diabetic rats.	Hypertens Res 2020 Oct;43(10):1079-1088.	Original Article
39	Uematsu M , Nagase A, Onoda S, et al.	腎臓・高血圧内科	Factors Relating to Vascular Damage in Patients on Continuous Ambulatory Peritoneal Dialysis.	Dokkyo J Med Sci 2020 Jul ; 47(2): 55-66	Original Article
40	Ishimitsu T	腎臓・高血圧内科	The start of a new review series : recent advances in the management of secondary hypertension.	Hypertens Res 2020 Aug;43(8):731-732	Others
41	Ishimitsu T	腎臓・高血圧内科	Eleventh Hypertension Research Award for authors of outstanding papers in Hypertension Research.	Hypertens Res 2020 Dec;43(12):1325-1326.	Others
42	Ishimitsu T	腎臓・高血圧内科	Message from previous Editor-in- Chief-Many thanks and expectations.	Hypertens Res 2021 Jan;44(1):1.	Others

43	Akio Iwasaki, Norito Kokubun, Kei Funakoshi, et al.	脳神経内科	Hydrocephalus due to marked enlargement of spinal roots in a patient with chronic inflammatory demyelinating polyradiculoneuropathy.	Eur J Neurol . 2020 Nov;27(11):2385-2388.	Original Article
44	Mai Hamaguchi, Norito Kokubun, Michio Inoue, et al.	脳神経内科	A family with adult-onset myofibrillar myopathy with BAG3 mutation (P470S) presenting with axonal polyneuropathy.	Neuromuscul Disord . 2020 Sep;30(9):727-731.	Case report
45	Keisuke Suzuki, Hiroaki Fujita, Madoka Okamura, et al.	脳神経内科	Does good sleep reduce early-morning off periods in patients with Parkinson's disease?	Sleep. 2020 Aug 12;43(8):zsaa020.	Letter
46	Keisuke Suzuki, Hiroaki Fujita, Koichi Hirata	脳神経内科	Parkinson's Disease and Headache: Is there a Relevant Relationship?	Headache . 2020 Jul;60(7):1440-1441.	Letter
47	Daisuke Tsukui, Yugo Ishihara, Norito Kokubun, et al.	脳神経内科	Postcentral gyrus infarction with spared proprioceptive sensation.	eNeurologicalSci . 2020 Aug 28;21:100267.	Case report
48	Keisuke Suzuki, Hiroaki Fujita, Takeo Matsubara, et al.	脳神経内科	Zonisamide effects on sleep problems and depressive symptoms in Parkinson's disease.	Brain Behav . 2021 Mar;11(3):e02026.	Original Article
49	Keisuke Suzuki, Yasuo Haruyama, Gen Kobashi, et al.	脳神経内科	Central sensitization in neurological, psychiatric and pain disorders: a multicenter case-controlled study.	Pain Res Manag 2021 Feb 15;2021:6656917.	Original Article
50	Hiroaki Fujita, Keitaro Ogaki, Tomohiko Shiina, et al.	脳神経内科	V180I genetic Creutzfeldt-Jakob disease with cardiac sympathetic nerve denervation masquerading as Parkinson's disease: A case report	Medicine (Baltimore) . 2021 Jan 15;100(2):e24294.	Case report

51	Mai Hamaguchi, Hiroaki Fujita, Keisuke Suzuki	脳神経内科	Vertebral osteomyelitis as a hidden cause of persistent meningeal irritation in a patient with pneumococcal meningitis: A case report.	Medicine (Baltimore) . 2021 Feb 12;100(6):e24705.	Case report
52	Aso Y,Kase M, Sagara M et al.	内分泌代謝内科	Teneligliptin, a DPP-4 Inhibitor,Decreases Plasma Levels of Inflammatory Chemokines During a Standard Meal Test in Patients With Type 2 Diabetes	Am J Med Sci.2020 Sep;360(3):261-267.	Original Article
53	Jojima T,Kogai T,Iijima T et al.	内分泌代謝内科	Genetic alteration of ARMC5 in a patient diagnosed with meningioma and primary macronodular adrenal hyperplasia	Eur J Endocrinol.2020 Dec;183(6):K7-K12	Case report
54	Sakurai S, Jojima T,Iijima T et al.	内分泌代謝内科	Empagliflozin decreases the plasma concentration of plasminogen activator inhibitor-1 (PAI-1) in patients with type2 diabetes:Association with improvement of fibrinolysis	J Diabetes Complications.2020 Nov;34(11):107703	Original Article
55	Mizunuma Y, Kanasaki K,Nitta K et al.	内分泌代謝内科	CD-1db/db mice:A novel type2 diabetic mouse model with progressive kidney fibrosis	J Diabetes Investing.2020 Nov;11(6):1470-1481.	Original Article
56	Kishi H,Jojima T,Kogai T et al.	内分泌代謝内科	A case of hypoparathyroidism, deafness, and renal dysplasia (HDR) syndrome with a novel frameshift variant in GATA3, p.W10Cfs40, lacks kidney malformation	Clin Case Rep.2020 Aug 14;8(12):2619-2624.	Case report

57	Shinohara Y,Iijima T,Sakurai S et al.	内分泌代謝内科	Bullous pemphigoid associated with dipeptidyl peptidase-4 inhibitor showing unfavorable outcomes despite immediate discontinuation of medication	Clin.Case Rep.2020 Aug 30;8(10):2007-2012.	Case report
58	Yasui-Furukori N, Shimoda K.	精神科	Recent trends in antipsychotic polypharmacy in the treatment of schizophrenia.	Neuropsychopharmacol Rep. 2020 Sep;40(3):208-210.	Review
59	Sugawara N, Yasui-Furukori N, Maruo K, et al.	精神科	Working status of caregivers for people with dementia: analysis data from a Japanese nationwide survey.	PLoS One. 2020 May 29;15(5):e0232787.	Original Article
60	Tokumitsu K, Sugawara N, Maruo K, et al.	精神科	Prevalence of perinatal depression among Japanese women: a meta-analysis.	Ann Gen Psychiatry. 2020 Jun 26;19:41.	Review
61	Sugawara N, Yasui-Furukori N, Yamazaki M, et al	精神科	Predictive utility of body mass index for metabolic syndrome among patients with schizophrenia in Japan.	Neuropsychiatr Dis Treat. 2020 Sep 30;16:2229-2236.	Original Article
62	Sugawara N, Yasui-Furukori N, Sayama M, et al.	精神科	Factor structure of the university personality inventory in Japanese medical students.	BMC Psychol. 2020 Oct 1;8(1):103.	Original Article
63	Yokoyama S, Yasui-Furukori N, Nakagami T, et al.	精神科	Association between serum carnitine, ammonia and valproic acid levels in bipolar disorders patients	Ther Drug Monit. 2020 Oct;42(5):766-770.	Original Article
64	Yasui-Furukori N, Adachi N, Kubota Y, et al.	精神科	Factors associated with doses of mood stabilizers in real-world outpatients with bipolar disorder.	Clinical Psychopharmacology and Neuroscience 2020 Nov 30;18(4):599-606.	Original Article

65	Tokumitsu K, Yasui-Furukori N, Adachi N, et al.	精神科	Real-world clinical features of antidepressant prescribing patterns for outpatients with bipolar disorder	BMC Psychiatry . 2020 Nov 23;20(1):555.	Original Article
66	Tokumitsu K, Sugawara N, Maruo K, et al.	精神科	Prevalence of perinatal depression among Japanese men: a meta-analysis	Annals General Psychiatry 2020 Nov 18;19(1):65.	Review
67	Sugawara N, Yasui-Furukori N, Tsuji T, et al.	精神科	The relationship between baseline clinical symptom characteristics and working ability in Japanese patients treated for major depressive disorder and painful physical symptoms.	Neuropsychiatric Disease and Treatment 2020 Dec 11;16:3063-3070	Original Article
68	Okayasu H, Yasui-Furukori N, Kadowaki T, et al.	精神科	Bickerstaff's brainstem encephalitis suspected as functional neurologic disorders	International Medical Case Reports Journal 2020 May 18;13:177-181	Case report
69	Sato Y, Shinozaki M, Okayasu H, et al.	精神科	Successful treatment with lithium in a refractory patient with periodic catatonic features: A case report.	Clin Neuropharmacol. May/Jun 2020;43(3):84-85.	Case report
70	Sato Y, Shinozaki M, Sasaki H, et al.	精神科	Gluten-related disorder and lactose intolerance concomitant with avoidant/restrictive food intake disorder.	Prim Care Companion CNS Disord. 2020 Jul 2;22(4):19l02517.	Case report
71	Kikuchi K, Yasui-Furukori N, Yokoyama S, et al.	精神科	Clozapine-associated severe eosinophilia following lithium rebound neutropenia: A case report.	Neuropsychopharmacol Rep. 2020 Dec;40(4):388-391.	Case report

72	Tokumitsu K, Yasui-Furukori N, Takeuchi J, et al.	精神科	The combination of MMSE with VSRAD and eZIS has greater accuracy for discriminating mild cognitive impairment from early Alzheimer's disease than MMSE alone.	PLoS One. 2021 Feb 22;16(2):e0247427.	Original Article
73	Hiroaki Okayasu, Takahiro Shinozaki, Yumiko Takano, et al.	精神科	Effects of antipsychotics on arrhythmogenic parameters in schizophrenia patients: beyond corrected QT interval	Neuropsychiatr Dis Treat. 2021 Jan 27;17:239-249.	Original Article
74	Tokumitsu K, Oyama S, Takeuchi J, et al	精神科	Heidenhain variant of Creutzfeldt-Jakob disease resembles dementia with Lewy bodies.	Psychogeriatrics. 2021 Jan;21(1):121-124.	Case report
75	Saito Y, Hayashi S, Gonmori T, et al.	皮膚科	Interrupting tocilizumab therapy-induced psoriasis-like eruption in a patient with rheumatoid arthritis and Crohn's disease.	Int J Dermatol. 2020 May;59(5):e159-e160.	Letter
76	Hayashi S, Ishikawa S, Ishii E, et al.	皮膚科	Anti-Inflammatory Effects of Potassium Iodide on SDS-Induced Murine Skin Inflammation.	J Invest Dermatol. 2020 Oct;140(10):2001-2008.	Original Article
77	Okubo R, Hayashi S, Kaminaga T, et al.	皮膚科	A case of bullous systemic lupus erythematosus presenting both IgG and IgA autoantibodies for collagen VII.	Int J Dermatol. 2020 Jul;59(7):e260-e262.	Letter

78	Hayashi S, Lin W, Hamasaki Y, et al.	皮膚科	Vascular Ehlers-Danlos syndrome patient with a novel COL3A1 gene deletion mutation without alteration in the triple sequence of (Gly-X-Y) repeat.	J Dermatol. 2020 Nov;47(11):e390-e391.	Letter
79	Koike M, Hayashi S, Baba A, et al.	皮膚科	PCR-based diagnosis of Sporothrix infection using DNA from paraffin-embedded skin specimens in previously undiagnosed cases.	Eur J Dermatol. 2020 Oct 1;30(5):614-615.	Original Article
80	Okamoto M, Hayashi S, Ikegami T, et al.	皮膚科	Development of Sweet's syndrome and the immunological finding of systemic lupus erythematosus during the course of mixed connective tissue disease.	Int J Dermatol. 2021 Mar;60(3):e107-e108.	Letter
81	Nagaoka S, Hayashi S, Mori S, et al.	皮膚科	A case of macular rash misleading to drug eruption in secondary syphilis.	J Dermatol. 2021 Feb;48(2):e104-e105.	Letter
82	Otani Y, Hayashi S, Kaneko Y, et al.	皮膚科	Pustular psoriasis associated with bullous pemphigoid with fluctuating anti-BP180 antibody titre according to the condition of pustular lesions.	Eur J Dermatol. 2021 Feb 1;31(1):107-109.	Original Article
83	Kumazawa M, Inamura K, Tsengel G, et al.	放射線科	Impressive MRI findings of bilateral ovarian endometriomas coexisting with ovarian metastases: the structural relationship between the endometrioma and the ovary.	断層映像研究会雑誌 (Journal of Tomography). 47(2):5-8, 2021.Feb	Case report

84	Atsuko Takada-Owada, Yumi Nozawa, Masato Onozaki, et al	病理診断科	Plasmacytoid urothelial carcinoma of renal pelvis with positive zinc finger E-box-binding homeobox 1: a case report	Diagnostic Pathology.2020 Oct 8;15(1):124	Case report
85	Ren Kawamura, Yukinori Harada, Taro Shimizu	総合診療科	Missed Diagnosis of Cholangiocarcinoma Presenting with Atypical Symptoms.	Eur J Case Rep Intern Med. 2021 Jan 26;8(1):002207	Original Article
86	Takanobu Hirosawa, Yukinori Harada, Toshihiro Nishinobu, et al.	総合診療科	The diagnostic value of Reversed Carnett's sign for detecting intra-abdominal lesion in patients with acute abdominal pain.	JHGM. 2021 Jan ;3(1):11-20	Original Article
87	Takanobu Hirosawa, Tetsu Sakamoto, Taro Shimizu	総合診療科	Gastric Anisakiasis	Am J Med Sci. 2020 Sep;360(3):318-319.	Case report
88	Takanobu Hirosawa, Taro Shimizu	総合診療科	Brachiocephalic Vein Thrombosis.	Am J Med Sci. 2020 May;359(5):306-307.	Case report
89	Yukinori Harada, Shinichi Katsukura, Ren Kawamura, et al.	総合診療科	Efficacy of Artificial-Intelligence-Driven Differential-Diagnosis List on the Diagnostic Accuracy of Physicians: An Open-Label Randomized Controlled Study.	Int J Environ Res Public Health. 2021 Feb 21;18(4):2086	Original Article
90	Yukinori Harada, Taro Shimizu	総合診療科	Impact of a Commercial Artificial Intelligence-Driven Patient Self-Assessment Solution on Waiting Times at General Internal Medicine Outpatient Departments: Retrospective	JMIR Med Inform. 2020 Aug 31;8(8):e21056	Original Article

91	Yukinori Harada, Taro Shimizu	総合診療科	Delayed Diagnosis of Pulmonary Thromboembolism Due to Overfocus on COVID-19.	Eur J Case Rep Intern Med. 2020 Oct 21;7(11):002002	Original Article
92	Yukinori Harada, Shintaro Kakimoto, Taro Shimizu	総合診療科	Pazopanib-associated interstitial lung disease in a patient with renal cell carcinoma.	BMJ Case Rep. 2020 Jul 8;13(7):e235177.	Case report
93	Taro Shimizu	総合診療科	Horizontal and vertical tracing: a cognitive forcing strategy to improve diagnostic accuracy.	Postgrad Med J. 2020 Oct;96(1140):581-583	Original Article
94	Taro Shimizu	総合診療科	Elderly woman with swollen leg.	J Am Coll Emerg Physicians Open. 2020 Sep 7;1(5):1149-1150.	Case report
95	Taro Shimizu	総合診療科	Synchronous Bilateral Spontaneous Pneumothorax.	Am J Med Sci. 2020 Dec;360(6):e21.	Case report
96	Kei Mizusawa, Taro Shimizu	総合診療科	Three Cases of Food Poisoning Due to Paralepistopsis acromelalga Diagnosed from an Outbreak of Erythromelalgia.	Intern Med. 2021 May 15;60(10):1637-1640.	Case report
97	Takahiro Ito, Hiroshi Sawachika, Yukinori Harada, et al.	総合診療科	The Dangers of Immediately Performing a Sensitive and Specific Investigation versus the Dangers of Delaying It: A Cautionary Case of Hodgkin's Lymphoma.	Eur J Case Rep Intern Med. 2020 Dec 1;7(12):002138	Original Article

98	Shotaro Matsudera, Yoshihito Kano, Yasuko Aoyagi, et al.	第一外科	A pilot study analyzing the clinical utility of comprehensive genomic profiling using plasma cell-free DNA for solid tumor patients in Japan (PROFILE Study)	Annals of Surgical Oncology, 2021 Mar 28. doi: 10.1245/s10434-021-09856-5	Original Article
99	Kobayashi S, Karube Y, Matsumura Y, et al.	呼吸器外科	Inflammatory Risk Factors for Early Recurrence of Non-Small Cell Lung Cancer Within One Year Following Curative Resection	World J Surg • 2020 Oct;44(10):3510-3521.	Original Article
100	Inoue T, Yagi Y	呼吸器外科	Color standardization and optimization in whole slide imaging	Clin Diagn Pathol • 2020 Sep;4(1):10.15761	Original Article
101	Chida M, Araki O, Karube Y, et al.	呼吸器外科	Right-to-left inverted single lung transplantation	JTCVS Tech. 2020 Sep 30;4:395-397.	Original Article
102	Hiroshi Taneichi, Satoshi Inami, Hiroshi Moridaira, et al.	整形外科	Can we stop the long fusion at L5 for selected adult spinal deformity patients with less severe disability and less complex deformity?	Clin Neurol Neurosurg. 2020 Jul;194:105917	Original Article
103	Chiba T, Inami S, Moridaira H, et al.	整形外科	Growing rod technique with prior foundation surgery and sublaminar taping for early-onset scoliosis.	J Neurosurg Spine. 2020 Jun 26;1-6.	Original Article
104	Hiroshi Moridaira, Satoshi Inami, Daisaku Takeuchi, et al.	整形外科	Can we use shorter constructs while maintaining satisfactory sagittal plane alignment for adult spinal deformity?	J Neurosurg Spine. 2020 Dec 25;1-8.	Original Article

105	Nukui A, Kamai T, Arai K, et al.	泌尿器科	Association of cancer progression with elevated expression of programmed cell death protein 1 ligand 1 by upper tract urothelial carcinoma and increased tumor-infiltrating lymphocyte density	Cancer Immunol Immunother, 2020 May;69(5):689-702	Original Article
106	Okubo N, ;Kobayashi M, Kusakabe T, et al.	泌尿器科	A case of a hematocele of the spermatic cord mimicking epididymal tumor.	Urology case reports,2020 Jun 23;33:101318	Case report
107	Suzuki I, Kijima T, Owada A, et al.	泌尿器科	Case of prostate stromal tumour of uncertain malignant potential where positron emission tomography with 18F-fluorodeoxyglucose was useful for surgical planning.	BMJ case reports, 2020 Sep 10;13(9):e235738.	Case report
108	Okubo N, Kijima T, Nukui A, et al.	泌尿器科	Immune-related myositis resulting from combination therapy of ipilimumab and nivolumab in patient with metastatic renal cell carcinoma.	BMJ case reports,2020 Sep 9;13(9):e235199	Case report
109	Tokura Yuumi;Kobayashi Minoru;Kamai Takao	泌尿器科	Local advanced adrenocortical cancer with a long-term recurrence-free survival treated with complete surgical excision and adjuvant therapy with a very low-dose mitotane.	IJU case reports,2020 Jul 15;3(6):233-235	Case report

110	Yamaguchi Y, Kamai T, Kobayashi M	泌尿器科	Comparative accuracy of the Liliun α-200 portable ultrasound bladder scanner and conventional transabdominal ultrasonography for postvoid residual urine volume measurement in association with the clinical factors involved in measurement errors.	Neurourology and urodynamics, 2021 Jan;40(1):183-192.	Original Article
111	Okazaki A, Kijima T, Schiller P, et al.	泌尿器科	Spontaneous regression of multiple pulmonary metastases accompanied by normalization of serum immune markers following cytoreductive nephrectomy in a patient with clear-cell renal cell carcinoma.	IJU case reports, 2020 Dec 26;4(2):95-99.	Case report
112	Kurashina R, Kijima T, Okazaki A, et al.	泌尿器科	Utility of whole-body diffusion-weighted magnetic resonance imaging in the management of treatment-related neuroendocrine prostate cancer.	IJU case reports, 2020 Nov 29;4(2):69-73.	Case report
113	Makoto Akutsu, Hiroaki Kanaya, Takashi Kashiwagi, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Matrix metalloproteinase-8-positive neutrophils in nasal polyps are involved in the disease progression of eosinophilic chronic rhinosinusitis : a clinico-pathological study.	Dokkyo journal of medical science, 2020.10.25 47 (3) : 125 ~136	Original Article
114	Hiroaki Kanaya, Makoto Akutsu, Takashi Kashiwagi, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	A rare case of squamous cell carcinoma arising from nasal vestibule.	Otolaryngology Case Reports Volume 14, March 2020, 100145(オンライン)	Original Article

115	Yuske Komiyama, Chikako Koshiji, Waka Yoshida, et al	口腔外科	5,10Methylenetetrahydrofolate reductase (MTHFR) C677T/A1298C polymorphisms in patients with nonsyndromic cleft lip and palate.	Biomedical reports, 2020 Dec;13(6):57.	Original Article
116	Ryouta Kamimura, Chonji Fukumoto, Tomonori Hasegawa, et al	口腔外科	A case of mandibular peripheral osteoma on the inferior border of the mandible	Oral Science International. Volume17, Issue3, September 2020, 164-168	Case report
117	Chonji Fukumoto, Shouhei Ogisawa, Masashi Tani, et al	口腔外科	Clinical characteristics, treatment methods and prognoses of patients with oral squamous cell carcinoma in Japanese population: a single institution retrospective cohort study.	BMC geriatrics.2020 Nov 20;20(1):487 (オンライン)	Original Article
118	Yuta Sawatani, Yuske Komiyama, Koh-ichi Nakashiro, et al	口腔外科	Paclitaxel Potentiates the Anticancer Effect of Cetuximab by Enhancing Antibody-Dependent Cellular Cytotoxicity on Oral Squamous Cell Carcinoma Cells In Vitro.	International journal of molecular sciences.2020 Aug 31;21(17):6292 (オンライン)	Original Article
119	Michiko Shimura, Kamimura Ryota, Yuta Sawatani, et al	口腔外科	Whole exome analysis of SMO, BRAF, PTCH1 and GNAS on odontogenic diseases	In vivo. Nov-Dec 2020;34(6):3233-3240. (オンライン)	Original Article
120	Tomonori Hasegawa, Koh-ichi Nakashiro, Chonji Fukumoto, et al	口腔外科	Oral squamous cell carcinoma may originate from bone marrow-derived stem cells	Oncology Letters.2021 Feb;21(2):170.	Original Article
121	Atsushi Fujita, Yoshiya Ueyama, Hitoshi Nagatsuka, et al	口腔外科	A case of large adenomatoid odontogenic tumor in the posterior region of the mandible showing root resorption	Journal of Oral Medicine and Oral Surgery.2021 Jan, Vol 27, 2,19 (オンライン)	Original Article

122	Shouhei Ogisawa, Yuta Sawatani, Michiko, Shimura et al	口腔外科	Marked improvement of breathing status by surgical mandibular advancement in a patient with Treacher-Collins syndrome	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology. Vol 32, Issue 6, Nov 2020, 484-487	Case report
123	Kaga Kanya, Yamanishi Tomonori, Kaga Mayuko, et al.	排泄機能センター	Urodynamic efficacy of fesoterodine for the treatment of neurogenic detrusor overactivity and/or low compliance bladder.	International Journal of Urology ,2020 Oct;27(10):899-904.	Original Article
124	Kamasako Tomohiko, Kaga Kanya, Kaga Mayuko, et al.	排泄機能センター	Effects of pilocarpine, a muscarinic receptor agonist, on contraction of the pig and human urinary bladder	Clinics in Surgery, 2020 Aug; (5) (オンライン)	Original Article
125	Kaga Kanya, Kamasako Tomohiko, Kaga Mayuko, et al.	排泄機能センター	Efficacy and safety of pilocarpine hydrochloride in the treatment of voiding difficulty in patients with detrusor underactivity	Clinics in Surgery, 2020 Aug; (5) (オンライン)	Original Article
126	Kentarou Hayashi, Yusuke Sasabuchi, Hiroki Matsui, et al.	救急医学	Clinical Effect of the Acrylonitrile-Co-Methallyl Sulfonate Surface-Treated Membrane as a Cytokine Adsorption Therapy for Sepsis due to Acute Panperitonitis: A Retrospective Cohort Study.	Blood purification 2020 May;49:364-371	Original Article
127	Koji Wake, George Imataka, Toshihiko Ohnishi, et al.	救急医学	A Case-Study of a Child with Reversible Posterior Leukoencephalopathy Syndrome (RPLS) Associated with Severe Burns throughout the Body.	Iranian journal of public health 2020 Jul;49(7):1390-1391	Case report

128	Shimizu Y, Shiobara T, Arai R et.al.	呼吸器・アレルギー内科	Real-life effectiveness of fluticasone furoate/vilanterol after switching from fluticasone/salmeterol or budesonide/formoterol therapy in patients with symptomatic asthma: Relvar Ellipta for Real Asthma Control Study (RERACS study) .	J Thorac Dis 2020 May;12(5):1877-1883	Original Article
129	Shimizu Y, Nakamura Y, Horibata Y et.al.	呼吸器・アレルギー内科	Imaging of lysophosphatidylcholine in an induced pluripotent stem cell-derived endothelial cell network.	Regenerative Therapy 2020 May 18;14:299-305.	Original Article
130	Morita H, Shimizu Y, Nakamura Y et.al.	呼吸器・アレルギー内科	Auto-antibody evaluation in idiopathic interstitial pneumonia and worse survival of patients with Ro52/TRIM21auto-antibody.	J Clin Biochem Nutr, 2020 Sep;67(2):199-205.	Original Article
131	Nakamura Y, Takemasa A, Kushima Y et.al.	呼吸器・アレルギー内科	A case of spindle cell dominant histiocytic sarcoma showing a complete remission after first-line chemotherapy with doxorubicin and ifosfamide.	J Chemother 2020 Dec;32(8):445-450	Original Article
132	Shunsuke Saito, Koichi Toda, Shigeru Miyagawa, et al.	心臓・血管外科	Recovery From Exhaustion of the Frank-Starling Mechanism by Mechanical Unloading With a Continuous-Flow Ventricular Assist Device	Circulation journal 2020 Jun 25;84(7):1124-1131	Original Article
133	Shibasaki I, Toyoda S, Takei Y, et al.	心臓・血管外科	Primary spindle cell sarcoma of the heart treated with carbon-ion radiotherapy: Case report	International Journal of Surgery Case Reports 2020 Sep;76:1-4.	Case report

134	Hironaga Ogawa, Toshiaki Nakajima, Ikuko Shibasaki, et al.	心臓・血管外科	Low-Intensity Resistance Training with Moderate Blood Flow Restriction Appears Safe and Increases Skeletal Muscle Strength and Size in Cardiovascular Surgery Patients: A Pilot Study	Journal of clinical medicine 2021 Feb 2;10(3):547.	Original Article
135	Chino S, Yamanaka E, Takasusuki T, et al.	麻酔科	Comparison of cardiac repolarization after transcatheter aortic valve implantation and surgical aortic valve replacement: a longitudinal study	Cardiol Ther. 2020 Jun; 9(1): 97–105	Original Article
136	Yamanaka E, Chino S, Takasusuki T, et al.	麻酔科	Effect of methadone on cardiac repolarization in japanese cancer patients: a longitudinal study	Cardiol Ther. 2020 Jun; 9(1): 119–126	Original Article
137	Eda K, Ogura N, Yamada T, et al.	麻酔科	Anesthetic management using epidural anesthesia combined with ultrasound guided serratus plane block in two breast surgery of patients with severe respiratory disorder	J Anesth Clin Res. 2020 Apr;11(4):1-3	Case report
138	Sakamizu A, Yaguchi E, Hamaguchi S	麻酔科	Anesthetic management for an adult with glycogen storage disease type 0	Anesthesia progress.2020 Dec 1;67(4):233-234.	Case report
139	Sato Y, Ajima T, Takasusuki T, et al.	麻酔科	Pre and Post Synaptic Mechanisms about the Peripheral Nerve-injured Plasticity of Nociceptive Transmission in the Superficial Dorsal Horn of Mouse Spinal Cord	Dokkyo Journal of Medical Sciences.2021 Mar;48(1):23-31	Original Article
140	Yamada T, Kaneko H, Inose C, et al.	麻酔科	Effect of In-vivo Administration of Nafamostat on the Onset of Renal Hyperkalemia and Association of Urine Kallikrein in Rats	Dokkyo Journal of Medical Sciences.2021 Mar;48(1):33-42	Original Article

141	Yamaguchi S, Uchida E, Terahara T, et al.	麻醉科	Efficacy and Safety of Fentanyl Citrate Patch, Including a Low-Dose 0.5 mg Formulation, in Opioid-Naïve Patients with Cancer Pain	Clinical drug investigation. 2020 Nov;40(11):1041-1052	Original Article
142	Keiichi Kubota, Jin-Young Jang, Yasuni Nakanuma, et al.	第二外科	Clinicopathological characteristics of intraductal papillary neoplasm of the bile duct: a Japan-Korea collaborative study.	J Hepatobiliary Pancreat Sci . 2020 Sep;27(9):581-597.	Original Article
143	Taku Aoki, Keiichi Kubota, Shoji Kubo, et al.	第二外科	Analysis of Patient Outcome after Non-curative Resection for Hepatocellular Carcinoma Using Nationwide Survey Data in Japan.	World J Surg. 2021 Feb;45(2):607-614.	Original Article
144	Mitsuru Ishizuka, Takayuki Shimizu, Norisuke Shibuya, et al.	第二外科	Impact of Primary Tumor Location on Survival After Curative Resection in Patients with Colon Cancer: A Meta-Analysis of Propensity Score-Matching Studies.	Oncologist. 2021 Mar;26(3):196-207.	Original Article
145	Hiroyuki Hachiya, Taku Aoki, Yukihiro Iso, et al.	第二外科	Effects of branched-chain amino acids on postoperative tumor recurrence in patients undergoing curative resection for hepatocellular carcinoma: A randomized clinical trial.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2020 Nov;27(11):819-829.	Original Article
146	Shozo Mori, Taku Aoki, Kazuma Tago, et al.	第二外科	The ABO Blood Group Impacts the Survival of Patients Undergoing Pancreatoduodenectomy for Biliary Tract Cancer.	In Vivo. Jul-Aug 2020;34(4):1893-1900.	Original Article
147	Yuhki Sakuraoka, Keiichi Kubota, Genki Tanaka, et al.	第二外科	Features of Hepatocellular Carcinoma With Micro Hepatic Vein Invasion and their Correlation With Hepatitis B and C Virus.	Anticancer Res. 2020 Jul;40(7):3983-3990.	Original Article

148	Yuhki Sakuraoka, Keiichi Kubota, Genki Tanaka, et al.	第二外科	Is left-sided involvement of hepatocellular carcinoma an important preoperative predictive factor of poor outcome?	World J Surg Oncol. 2020 Dec 3;18(1):317.	Original Article
149	Yuhki Sakuraoka, Rashmi Seth, Amanda Pcs Boteon, et al.	第二外科	Large Riedel's lobe and atrophic left liver in a donor - Accept for transplant or call off?	World journal of transplantation・2020 May 29;10(5):129-137	Case report
150	Takayuki Shimizu, Mitsuru Ishizuka, Takayuki Shiraki, et al.	第二外科	The clinical influence of the preoperative lymphocyte-to- monocyte ratio on the postoperative outcome of patients with early-stage gastrointestinal cancer.	Ann Gastroenterol Surg. 2020 Jul 8;4(5):580-590.	Original Article

計150件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 本学の倫理審査委員会について、審査の流れ、手続きについて	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反管理の対象、利益相反管理委員会について、利益相反管理委員会の審査の流れ	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回（持回審査）

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回＋e-learning
・ 研修の主な内容 ○「研究倫理の“なぜ？”を考えよう」 ○e-learning教材「eAPRIN」医学研究者標準コース	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

1. 初期臨床研修

当院では初期臨床研修制度に規定される、基幹型臨床研修病院（大学病院）として、2年間の初期研修医教育を行っています。

プライマリ・ケアの習得を目的に、当院が擁する30診療科と臨床研修協力病院からなる病院群で研修を行うことにより、頻度の高い症例から高度医療まで網羅し、幅の広い初期臨床研修を行うことを可能としております。

当院における高度の医療に関する研修については、各診療科とも開業医及び市中病院より病診連携による紹介患者の受入れを実施しており、各種移植手術等の高難度手術適応患者の受入れや高度がん治療適用患者の受入れ、特定疾患治療等に代表される高度医療を実施し、同時に初期研修医・専攻医の診療参加および研修指導を実施しています。また、救急科研修においては当院の救命救急センターにて、救急車やドクターヘリによる3次救急患者（外傷・内疾患）の高度救命治療も研修カリキュラムの一環として組み込んでいます。

2. 専門研修

プライマリ・ケアを中心とした幅広い診療能力の習得を目的とする初期研修了後は、レジデントとして専門研修に続きます。

当院の専門研修は、これらの点を考慮して専門医研修が効果的に行われるように、診療各科の特徴を生かした専門研修プログラムとして、豊富な症例数と経験豊富な指導医により日本専門医機構が認定する全19基本領域の基幹プログラムを整備しています。また、当院では大学病院として高度医療を実施しており、サブスペシャリティ専門医資格の取得を目指す研修も可能です。

以上の研修プログラムにより専門医の育成・輩出を通じ地域医療への貢献に務めています。研修プログラム一覧は以下のとおりです。

【日本専門医機構認定 基本領域専門研修プログラム一覧（基幹プログラム）】

※歯科口腔外科を除く

- | | |
|-----------|------------------------------|
| ①内科（総合内科） | 獨協医科大学病院内科専門医養成プログラム |
| ②小児科 | 獨協医科大学病院小児科専門医養成プログラム |
| ③皮膚科 | 獨協医科大学病院皮膚科研修プログラム |
| ④精神科 | 獨協医科大学病院精神科専門医育成プログラム |
| ⑤外科 | 獨協医科大学外科専門研修プログラム |
| ⑥整形外科 | 獨協医科大学病院整形外科専門医養成プログラム |
| ⑦産科婦人科 | 獨協医科大学病院産婦人科専門研修プログラム |
| ⑧眼科 | 獨協医科大学病院眼科専門医養成プログラム |
| ⑨耳鼻咽喉科 | 獨協医科大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科専門医養成プログラム |
| ⑩泌尿器科 | 獨協医科大学病院泌尿器科専門研修プログラム |
| ⑪脳神経外科 | 獨協医科大学脳神経外科専門研修プログラム |

- ⑫放射線科 獨協医科大学病院放射線科専門研修プログラム
 ⑬麻酔科 獨協医科大学病院麻酔科専門医研修プログラム
 ⑭病理診断科 獨協医科大学病院病理専門研修プログラム
 ⑮臨床検査科 獨協医科大学病院臨床検査専門研修プログラム
 ⑯救急科 獨協医科大学病院救急科専門医研修プログラム
 ⑰形成外科 獨協医科大学形成外科研修プログラム
 ⑱リハビリテーション科 獨協医科大学病院リハビリテーション科専門医養成プログラム
 ⑲総合診療科（家庭医） 獨協医科大学病院総合診療専門医養成プログラム

口腔外科（歯科医師） 口腔外科専門医取得コース

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	153人（歯科医師含む）
-------------	--------------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
井上 晃男	心臓・血管内科/循環器内科	主任教授	40 年	
入澤 篤志	消化器内科	主任教授	32 年	
三谷 絹子	血液・腫瘍内科	主任教授	36 年	
石光 俊彦	腎臓・高血圧内科	主任教授	39 年	
鈴木 圭輔	脳神経内科	主任教授	19 年	
麻生 好正	内分泌代謝内科	主任教授	32 年	
仁保 誠治	呼吸器・アレルギー内科	主任教授	27 年	
倉沢 和宏	リウマチ・膠原病内科	主任教授	38 年	
志水 太郎	総合診療科	主任教授	15 年	
下田 和孝	精神神経科	主任教授	37 年	
井川 健	皮膚科	主任教授	25 年	
楫 靖	放射線科	主任教授	31 年	
菱沼 昭	感染制御・臨床検査医学	主任教授	39 年	

吉原 重美	小児科	主任教授	37 年	
小嶋 一幸	外科・小児外科 (第 1 外科)	主任教授	33 年	
窪田 敬一	外科 (第 2 外科)	主任教授	39 年	
林 光弘	乳腺科	学内教授	28 年	
福田 宏嗣	心臓・血管外科	主任教授	33 年	
千田 雅之	呼吸器外科	主任教授	35 年	
金 彪	脳神経外科	主任教授	40 年	
種市 洋	整形外科	主任教授	34 年	
釜井 隆男	泌尿器科	主任教授	29 年	
妹尾 正	眼科	主任教授	34 年	
春名 眞一	頭頸部・耳鼻咽喉科 (耳鼻咽喉・頭頸部外科)	主任教授	36 年	
三橋 暁	産婦人科 (産科婦人科)	主任教授	30 年	
美津島 隆	リハビリテーション科	主任教授	31 年	
朝戸 裕貴	形成外科・美容外科	主任教授	36 年	
濱口 眞輔	麻酔科	主任教授	31 年	
山口 重樹	麻酔科	主任教授	28 年	
小野 一之	救急科 (救命救急センター)	主任教授	38 年	
石田 和之	病理診断科	主任教授	23 年	
川又 均	歯科口腔外科	主任教授	34 年	歯科医師

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・ 令和2年度 第2回役職者研修会

「10月からの4週8休制について」

「全身CT撮影の変更内容に関して」

「新型コロナウイルス感染関連について」

日時：令和2年8月31日（月） 時間：16：30～17：00

参加人数：20名

・ 令和2年度 第1回放射線部勉強会

「国際医療福祉大学 実習終了報告」

日時：令和2年12月10日（木） 時間：17：00～18：00

参加人数： 20名（臨床実習生：9名）

・ 救急撮影勉強会

「救急外来CT撮影にて初期治療室患者対応の全身外傷時の撮影プロトコール・

パンスキャンを実機を用いて説明」

日時：令和2年11月4日（水）・5日（木）・6日（金）・9日（月）・10日（火）

11日（水）・12日（木）・13日（金）・16日（月）・17日（火）

18日（水）・19日（木）・20日（金）： 13回

時間：16：00～16：45

参加人数： 53名

・ インジェクショントレーナー養成研修『静脈穿刺に必要な薬剤の基礎知識』

日時：令和2年10月29日（木）

参加人数：24名

看護部研修関連

【新採用看護職員に関する研修】

- ・研修の期間・実施回数：2020年 4月 9回（同一内容を各部署にて実施）
- ・研修の参加人数：108名 9回実施 のべ972名

【方針説明会】

- ・研修の期間：2020年 4月 1回
- ・研修参加人数：480名

【看護研究発表会】

- ・研修期間：2020年6月・11月 2回
- ・研修参加人数：資料配布による紙面発表会 参加者 合計2170名

【看護部研修会】 COVID-19感染症によりなし

【専門領域】 COVID-19感染症によりなし

【レベルⅠa研修】災害看護等

- ・研修期間・実施回数：2020年10月 2回
- ・研修参加人数：105名

【レベルⅠb研修】摂食嚥下・認知症・入退院支援研修

- ・研修期間・実施回数：2020年7月～11月 3回
- ・研修参加人数：308名

【レベルⅡ研修】倫理研修

- ・研修期間・実施回数：2020年7月 1回
- ・研修参加人数：90名

【レベルⅡ研修】ケースレポート発表会

- ・研修期間・実施回数：2020年11月 1回 各部署にて実施
- ・研修参加人数：76名

【レベルⅢa研修】看護研究入門・倫理等

・研修期間・実施回数：平2020年7月から10月 3回

・研修参加人数：143名

【レベルⅢc研修】看護研究・発表会等

・研修期間・実施回数：2020年9月から12月 3回

・研修参加人数：38名

【新人看護職員指導者研修】求められる能力と資質

【新人教育実施指導者研修】求められる能力と資質

【実習指導者研修】心がまえ・専門学校との合同研修

・COVID感染症により中止 資料配布による自己学習 対象者186名

【看護補助者研修】感染予防・COVID-19対応研修

・研修期間・実施回数：2020年7月 2回

・研修参加人数：90名

・第69回日本医学検査学会予演会：2020年9月8日 7名

・帝京大学医療技術学部 臨床検査技師科実習生の臨地実習報告会：2021年3月19日 32名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・フィルグラスチムB S注シリンジの作用、適応ごとの投与量設定とそのエビデンス、使用時の注意

2020/7/3 全5名

・感染対策WEBセミナー「薬剤師が行う感染対策」 2020/7/14 全4名

・イムノブラダー勝注用説明会 2020/7/29 全26名

・ゼローダ錠説明会 2020/8/5 全22名

・適応追加説明会（イミフィンジ点滴静注） 2020/9/7 全8名

・新規採用薬説明会（カボメティクス錠） 2020/9/8 全13名

・新規採用薬説明会（エンレスト錠、エンスプリング皮下注） 2020/9/23 全28名

- ・適応追加説明会（オブジーボ点滴） 2020/10/2 全13名
- ・適応追加説明会（アバスチン点滴静注用、テセントリク点滴静注） 2020/10/5 全14名
- ・新規採用薬説明会（オニバイド点滴静注、ビルテプソ点滴静注） 2020/10/7 全11名
- ・新規採用薬説明会（ワーファリン錠、サークリサ点滴静注、テブミトコ錠）
2020/10/21 全41名
- ・インフルエンザ勉強会（イナビル吸入粉末剤、ゾフルーザ錠） 2020/11/9 全5名
- ・新規採用薬説明会（タブレクタ錠、メーゼント錠）、病棟薬剤業務説明会
2020/11/11 全49名
- ・新規採用薬説明会（イグザレルト錠、イルミア皮下注、バクスミー点鼻）
2020/11/25 全44名
- ・適応追加説明会（サイラムザ点滴静注液、BRAF阻害薬・カイプロリス点滴静注用、ダラザレ
ックス皮下注用） 2020/12/4 全21名
- ・適応追加説明会（ゼローダ錠、オブジーボ点滴静注・ヤーボイ点滴静注液）
2020/12/8 全21名
- ・新規採用薬説明会（エリキ्यूス錠、ニューベクオ錠、ノクサフィル錠・ノクサフィル点滴静
注液） 2020/12/9 全47名
- ・新規採用薬説明会（オキシコンチン錠、セジューラカプセル、フェインジェクト静注）
2020/12/23 全48名
- ・院内採用薬品説明会(適応追加を含む)（タリージェ錠、リクシアナ錠、フォシーガ錠）
2021/1/13 全51名
- ・新規採用薬説明会（エクロックゲル、ケイセントラ静注用、ピフェルトロ錠）
2021/1/27 全43名
- ・新規採用薬説明会（ジセレカ錠、デエビゴ錠、ベレキシブル錠）
2021/2/10 全41名
- ・新規採用薬説明会（エナロイ錠、キャブピリン配合錠、ブコラム口腔液）

2021/2/24 全44名

- ・新規採用薬説明会（エネフリード輸液、リベルサス錠）2021/3/10 全37名
- ・新規採用薬説明会（オンパットロ点滴静注、コミナティ筋注）部内臨床報告会

2021/3/24 全38名

【師長研修会】

- ・研修の期間・実施回数：2020年9月～2021年2月 6回
- ・研修の参加人数：のべ267名

【主任看護師研修会】

- ・研修の期間・実施回数：2020年4月から2021年2月 5回
- ・研修の参加人数：のべ244名
- ・臨床検査センター 医療安全講習会：2020年6月8日から6月21日 83名
- ・IS015189 感染対策～安全に業務を行うために：2020年6月22日から7月5日 83名
- ・IS015189 患者急変時の対応：2020年7月6日から7月19日 83名
- ・IS015189 緊急時・災害時の対応：2020年7月20日から8月2日 83名
- ・IS015189 倫理規定・患者情報の守秘義務：2020年8月3日から8月16日 83名
- ・IS015189 毒物・劇物管理、廃棄物管理：2020年8月17日から8月30日 82名
- ・医学系研究に関する倫理講習：2020年9月1日から10月30日 82名
- ・IS015189品質マネジメントシステム（QMS）を理解しよう：2020 年9月7日 から
9月22日 82名
- ・TSH検査のハーモナイゼーション：2020年12月1日から2021年1月30日 20名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・令和2年度 三病院合同Web研修会
(獨協医科大学病院・獨協医科大学埼玉医療センター・獨協医科大学日光医療センター)
「目標管理・行動評価表（ループリック）の運用について」

「評価表の提案」

日時：令和3(2021)年1月26日（火） Web開催（Microsoft Team）

時間：17：00～18：00

参加人数：17名

- ・ 第一回獨協医科大学病院薬薬連携セミナー 連携概要説明 2020/9/29 全 137 名
- ・ 第二回獨協医科大学病院薬薬連携セミナー 抗がん剤の基礎知識 1 レジメンとはなにか
2020/11/18 全 86 名
- ・ 帝京大学医療技術学部 臨床検査技師科実習生の臨地実習
: 2021 年 1 月 18 日～3 月 19 日 39 日間 1 名 8:30～17:00（実施要項に基づき各検査部門研修）
- ・ 帝京大学医療技術学部 臨床検査技師科実習生の臨地実習
: 2021 年 4 月 12 日～7 月 13 日 60 日間 2 名 8:30～17:00（実施要項に基づき各検査部門研修）

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 窪田敬一
管理担当者氏名	庶務課 鶴見 好邦 医事保険課 車田 みゆき 診療記録管理部 石川 昌宏 医療安全推進センター 牧 尚伸 医療連携部門 松浦 譲 感染制御センター 麻生 保 経理課 吉田 裕一 臨床研修センター 石橋 広昭 薬剤部 本田 雅巳

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課
		各科診療日誌	庶務課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	診療記録管理部
		看護記録	診療記録管理部
		検査所見記録	診療記録管理部
		エックス線写真	診療記録管理部
		紹介状	診療記録管理部
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療記録管理部
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課
		高度の医療の提供の実績	医事保険課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事保険課
		高度の医療の研修の実績	庶務課 臨床研修センター
		閲覧実績	庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携部門 医事保険課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全推進センター
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全推進センター
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全推進センター
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全推進センター

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御センター	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御センター	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御センター	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御センター	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部 経理課	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部 経理課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進センター
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御センター
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進センター
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療記録管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進センター
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全推進センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全推進センター
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進センター
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進センター 感染制御センター
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全推進センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進センター
		職員研修の実施状況	庶務課 医療安全推進センター 感染制御センター SDセンター
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進センター
管理者が有する権限に関する状況	庶務課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	庶務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	庶務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 ○ 2. 現状	
閲 覧 責 任 者 氏 名	病院長 窪田 敬一	
閲 覧 担 当 者 氏 名	事務部次長兼庶務課長 鶴見 好邦	
閲 覧 の 求 め に 応 じ る 場 所	事務部	
閲覧の手続の概要		
① 閲覧希望者より当院所定の申請書の提出。		
② ①により、病院長までの上申。		
③ ②により、本人確認（身分証明書等の提示）の後に情報開示。		

(注)既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： ○医療安全管理に関する基本的な考え方 ○組織に関する基本的事項 ○医療安全推進センターの設置に関する基本方針 ○医療安全管理委員会の設置に関する基本方針 ○監査委員会による外部監査に関する基本方針 ○特定機能病院間相互のピアレビューに関する基本方針 ○医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 ○事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○医療事故発生時の対応に関する基本方針 ○高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等の医療提供に関する基本方針 ○患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ○患者からの相談への対応に関する基本方針 ○その他医療安全の推進のために必要な基本方針 ○本指針の改廃	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
・ 設置の有無（ 有・無 ） ・ 開催状況：年 1 2 回 ・ 活動の主な内容： ○医療に係る安全管理のための指針(基本方針)に関すること ○医療安全管理委員会の規程に関すること ○医療安全対策の検討及び研究に関すること ○医療事故の調査・分析及び再発防止策の立案、実施、周知に関すること ○医療安全対策のための職員に対する指示に関すること ○医療安全対策の実施状況の調査、確認に関すること ○医療事故防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること ○監査委員会からの指摘に関すること ○内部通報窓口の設置に関すること ○医療安全に関する診療内容のモニタリングに関すること ○院内巡視（ラウンド）に関すること	

○病院長への報告基準（全死亡事例の報告及び一定水準以上の有害事象等の報告）に関すること
○その他医療安全対策に関すること

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 36 回

・ 研修の内容（すべて）：

○開催日；令和2年3月31日（火）

令和2年4月 1日（水）

形態；新規採用者オリエンテーション（医師、看護師、その他医療従事者）

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

「医薬品安全管理について」

「医療機器安全管理について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

医療安全推進センター 医療安全管理者 鈴木佳世子

医療安全推進センター 医療安全管理者 堀江美代子

臨床工学部 技師長 山口剛史

参加者；162名

○開催日；令和2年4月3日（金）

令和2年5月1日（金）

形態；新規採用者オリエンテーション（臨床研修医）

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

参加者；58名

○開催日；令和2年4月～令和3年3月（2回／月） 全24回

形態；中途／復職者オリエンテーション

テーマ；「当院での医療安全の取り組みについて」

「当院における個人情報保護について」

「薬剤管理について」

「医療機器安全管理について」

講師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

医療安全推進センター 医療安全管理者 鈴木佳世子
医療安全推進センター 医療安全管理者 河野由江
医療安全推進センター 医療安全管理者 堀江美代子
臨床工学部 技師長 山口剛史

参 加 者 ; 191名

うち、医師／レジデント 8名

その他医療従事者 183名

○開催期間 ; 令和2年6月22日(月)～令和3年3月26日(金)

形 態 ; 2020年度セイフティマネージャー研修①

テ ー マ ; 「コンフリクトマネジメント(紛争発見時の対応)」

開催方法 ; e-ラーニング+学習効果判定テスト

参 加 者 ; 101名

○開催期間 ; 令和2年6月22日(月)～令和3年3月26日(金)

形 態 ; 2020年度セイフティマネージャー研修②

テ ー マ ; 「コンフリクトマネジメント(紛争解決の対応)」

開催方法 ; e-ラーニング+学習効果判定テスト

参 加 者 ; 100名

○開催期間 ; 令和2年6月22日(月)～令和3年3月26日(金)

形 態 ; 2020年度セイフティマネージャー研修③

テ ー マ ; 「事故発生時の対応(患者・家族への説明)」

開催方法 ; e-ラーニング+学習効果判定テスト

参 加 者 ; 96名

○開催期間 ; 令和2年5月18日(月)～7月31日(金)

形 態 ; 講習会(第1回医療安全講習会)

講 師 ; 病院長 窪田敬一

医療安全推進センター長 種市洋

テ ー マ ; 「医療安全・一般」

開催方法 ; e-ラーニング+学習効果判定テスト

参 加 者 ; 2,413名

○開催期間 ; 令和2年9月14日(月)～11月30日(月)

形 態 ; 講習会(第2回医療安全講習会)

講 師；一般社団法人 中部品質管理協会 企画委員長

株式会社クオリティ・クリエイション 代表取締役 古谷健夫 先生

テ ー マ；「TQM (Total Quality Management) の推進による医療の質の向上」

開催方法；e-ラーニング+学習効果判定テスト

参 加 者；2,392名

○開催期間；令和2年11月20日（金）～令和3年2月27日（土）

形 態；講習会（第3回医療安全講習会）

講 師；獨協医科大学 教育支援センター 医事法制研究室

学内講師 上杉奈々

テ ー マ；「医療従事者における個人情報の適切な取り扱い」

開催方法；e-ラーニング+学習効果判定テスト

参 加 者；1,664名

○開催期間；令和3年1月19日（金）～3月31日（水）

形 態；講習会（第4回医療安全講習会）

講 師；医療安全推進センター 医療安全管理部門長 辰元宗人

医薬品管理安全責任者 本田雅巳

臨床工学部 技師長 山口剛史

テ ー マ；医療安全・医薬品・医療機器合同講習会

「外部立入検査等での指摘事項に対する当院の対応状況について」

1) 医療安全関係 2) 医薬品関係 3) 医療機器関係

開催方法；e-ラーニング+学習効果判定テスト

参 加 者；1,266名

○開催期間；令和3年2月9日（火）～3月31日（水）

形 態；講習会（第5回医療安全講習会）

講 師；小グループ代表者6名

テ ー マ；セイフティマネージャー小委員会活動内容報告

①グループ：心電図モニター関連

②グループ：睡眠薬使用・せん妄状態による有害事象関連

③グループ：安全な医療器材使用

④グループ：離床感知システム導入

⑤グループ：ポリファーマシー関連

⑥グループ：院内ラウンド

開催方法；e-ラーニング

参 加 者；1,077名

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・医療機関内における事故報告等の整備（☒有・無）
- ・その他の改善のための方策の主な内容：
 - 1) 標準化・規則化等の推進
 - 2) 定期的な医療安全管理部門広報（ニュースレター）の発行（1回/月）
 - 3) 病院幹部、医療安全管理委員会委員による院内ラウンド
 - 4) 医療安全講習会の理解度確認のためのe-ラーニングの導入
 - 5) 必要に応じたRCA分析、PARM分析の実施

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	④・無																								
・ 指針の主な内容： 制定 平成 19 年 10 月 1 日 改訂 平成 24 年 1 月18 日 改訂 平成 27 年 10 月 1 日 改訂 平成 30 年 4 月 1 日 改訂 平成 31 年 2 月 1 日 ○院内感染防止対策に関する基本的な考え方 ○院内感染防止に関する基本的事項 ○院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 ○感染事例報告などの医療にかかわる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針 ○患者さん等に対する当該指針の閲覧にする基本方針 ○患者さんからの相談への対応に関する基本方針 ○その他医療安全の推進のために必要な基本方針																									
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回																								
・ 活動の主な内容： 1)院内ラウンドの報告 2)病原体の検出報告（MR S A、緑膿菌、血液培養陽性、薬剤耐性菌、C Dの検出状況等） 3)感染症治療薬使用状況（毎月の抗MR S A薬、カルバペネム系抗菌薬、第4世代セフェム系抗菌薬、抗真菌薬） 4)H I V感染症関連報告 5)A S Tからの注意喚起 6)出感染症等の発生報告 7)その他 開催状況： <table><tr><td>第1回</td><td>2020年4月28日</td><td>第 7回</td><td>2020年10月27日</td></tr><tr><td>第2回</td><td>2020年5月26日</td><td>第 8回</td><td>2020年11月24日</td></tr><tr><td>第3回</td><td>2020年6月30日</td><td>第 9回</td><td>2020年12月22日</td></tr><tr><td>第4回</td><td>2020年7月28日</td><td>第10回</td><td>2021年 1月26日</td></tr><tr><td>第5回</td><td>2020年8月25日</td><td>第11回</td><td>2021年 2月 9日</td></tr><tr><td>第6回</td><td>2020年9月29日</td><td>第12回</td><td>2021年 3月30日</td></tr></table>		第1回	2020年4月28日	第 7回	2020年10月27日	第2回	2020年5月26日	第 8回	2020年11月24日	第3回	2020年6月30日	第 9回	2020年12月22日	第4回	2020年7月28日	第10回	2021年 1月26日	第5回	2020年8月25日	第11回	2021年 2月 9日	第6回	2020年9月29日	第12回	2021年 3月30日
第1回	2020年4月28日	第 7回	2020年10月27日																						
第2回	2020年5月26日	第 8回	2020年11月24日																						
第3回	2020年6月30日	第 9回	2020年12月22日																						
第4回	2020年7月28日	第10回	2021年 1月26日																						
第5回	2020年8月25日	第11回	2021年 2月 9日																						
第6回	2020年9月29日	第12回	2021年 3月30日																						

③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の内容（すべて）： ○院内感染防止対策講習会（全級職員対象）-SafetyPlus（e-ラーニング） 第 1 回 配信期間：2020年5月25日（月）～8月31日（月） 内 容：新型コロナウイルス感染から患者・医療者を守るために ～標準予防策の徹底の確認～ 講 師：福島篤仁（感染制御センター・副センター長） 松浦美和（感染制御センター・看護師） 参 加 数：2,383名 第 2 回 配信期間：2020年11月17日（火）～2021年1月31日（日） 内 容：HIV感染症の治療とケア update 2019 講 師：池田和子（国立国際医療研究センター エイズ治療・研究開発センター HIVコーディネーターナース/看護支援調整職） 参 加 数：2,130名 ○新規採用者オリエンテーション 日 時：2020年4月1日（水） 場 所：[医師・後期研修医] 基礎医学棟223教室、325教室、[医師以外] 関湊記念ホール 内 容：[医師・後期研修医] 院内感染防止対策について、新型コロナ対策・抗菌薬適正使用 [医師以外] 院内感染防止対策について 講 師：[医師・後期研修医] 長岡 匠（感染制御センター・薬剤師） 樽川友美（感染制御センター・臨床検査技師） [医師以外] 松浦美和（感染制御センター・看護師） 受講数：159名（医師12、後期研修医11、医師以外136） ○中途採用・復帰者オリエンテーション 開催日：毎月2回（1日、11日） 時 間：[医師・後期研修医] 10時30分頃～20分程度、[医師以外] 13時30分～20分程度 場 所：[医師・後期研修医] 事務局2階会議室など、[医師以外] 病院3階大会議室など 内 容：[医師・後期研修医] 院内感染防止対策について、新型コロナ対策・抗菌薬適正使用 [医師以外] 院内感染防止対策について 講 師：[医師・後期研修医] 長岡 匠（感染制御センター・薬剤師） 樽川友美（感染制御センター・臨床検査技師） [医師以外] 松浦美和（感染制御センター・看護師） 受講数：196名（医師12、後期研修医1、医師以外124、派遣59） ○臨床研修医オリエンテーション 開催日：2020年4月7日（水） 時 間：14時～17時 場 所：教育医療棟6階 シミュレーション講義室 内 容：講義①「感染症概論・感染症ポイント」 講師① 福島篤仁（感染制御センター・副センター長） 講義②「臨床微生物・抗酸菌検査・血液培養検査について」 講師② 鈴木弘倫（臨床検査センター・臨床検査技師） 講義③「抗菌薬適正使用」 講師③ 長岡 匠（感染制御センター・薬剤師） 講義④「院内感染対策まとめ」「新型コロナウイルス関連」 講師④ 松浦美和（感染制御センター・看護師） 講義⑤「職業感染対策」 講師⑤ 星野三奈（感染制御センター・看護師） 受講数：55名（医師50、歯科医5） ○看護部教育委員会看護補助研修	

日 時：2020年7月 9日（木）13時30分～14時20分、14時30分～15時20分
2020年7月10日（金）13時30分～14時20分、14時30分～15時20分

場 所：病院3階大会議室

内 容：感染防止対策（標準予防策など）

講 師：松浦美和（感染制御センター・看護師）

受講数：90名

○放射線部臨床実習生対象講習会

日 時：①令和2年7月13日（月）9時30分～10時

②令和2年9月28日（月）9時30分～10時

場 所：①MRI会議室

②教育医療棟7階シミュレーション講義室

内 容：病院実習における感染対策

講 師：星野三奈（感染制御センター・看護師）

受講数：① 2名

②11名

○委託業者対象講習会

開催日：令和2年10月29日（木）、10月30日（金）、11月5日（木）、11月6日（金）

11月9日（月）、11月10日（火）、11月12日（木）、11月13日（金）

11月16日（月）、11月19日（木）、11月26日（木）

時 間：9時～、11時～、14時30分～、15時～、16時～（各20分）

場 所：中会議室No.1、エネルギー棟3階事務室、教育医療棟5階、地下控室など

内 容：職場へ持ち込まない・持ち出さない・つけない

講 師：松浦美和（感染制御センター・看護師）

受講数：264名（時間外救急受付8、警備・整備80、清掃58、床屋2、栄養部66、リネン32、患者環境整備等18）

○夜間勤務者（看護補助アシスタント；委託）研修

開催日：令和3年1月5日（火）、2月1日（月）、2月15日（月）、3月1日（月）

時 間：14時～15時、15時30分～16時30分

場 所：病院3階大会議室

内 容：感染対策について～患者の安全を守るために～

講 師：松浦美和（感染制御センター・看護師）

受講数：33名

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ ☒ ・ 無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

感染症起因菌検出時に臨床検査センターから主治医および感染制御センターへ、その都度報告される。その感染症の届出を要するものについて、速やかに提出されない場合、感染制御センターから主治医へ届出提出を促している。

感染症管理支援ライブラリーにより電子カルテ上で患者の菌検出情報、抗菌薬使用状況等を把握し感染症の患者情報が迅速に得られ、医師、看護師の感染対策が早期に開始されている。また、入院患者および職員の感染症罹患情報を「健康観察把握票」に記載し、随時感染制御センターへ提出することになっている。

感染制御センターでは「健康観察把握票」をもとに感染対策状況を確認し、指導している。感染症届出の手順について、全ての職員に配付している「医療安全管理マニュアル（ポケット版）」に明記している。

職員対して周知・伝達が必要な情報等はＩＣＴニュース等により情報提供をしている。また、平成31年3月から学内専用ホームページを開設して①院内感染防止対策マニュアル、②感染防止講習会日程表、③ＩＣＴニュース並びに抗菌薬適正使用支援チーム(AST)からの注意喚起を掲載し情報提供している。

- ・新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症関連情報における周知方法の構築

医療物資の一元管理

新型コロナウイルス感染症院内対策マニュアル第1版作成、以降厚生労働省：新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の改訂に合わせて改訂実施し2021年9月現在（第4版）

新たなPCR検査体制のシステム化

一般患者受入れの際のリスク分類の明確化

COVID-19患者の受入れ時のシステム化と患者受入れの時の病床整備

病院衛生環境方法の統一化

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容： 医薬品に関わる安全講習会 ①病棟での麻薬管理について ②医療用麻薬オピオイドについて 医薬品安全管理について 令和2年度の医薬品安全管理に関わる話題について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (☑・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、在宅患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・周知、手術・麻酔部門、救命救急センター及び集中治療室、輸血・血液管理部門、生命維持管理装置領域、臨床検査部門、画像診断部門、外来化学療法部門、歯科領域、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修、特に安全管理が必要な医薬品（ハイリスク薬）、放射線医薬品、院内製剤、未承認・適応外および禁忌等の使用、医薬品関連の情報システムの利用について。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☑・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： COVID-19に対する有効な治療薬として、ヒドロキシクロロキン（プラケニル錠200mg）を使用。（適応外使用） クローン病、小児へのステララ点滴静注/皮下注を使用 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 病棟ストックより使用した注射薬が、セレネース注のところ、サイレース注と取り違えた事例があったため、サイレース注の病棟ストックへの配置を原則中止とした。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☑・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 4 7 回
・ 研修の主な内容： 対象医療機器①人工心肺装置及び補助循環装置②人工呼吸器③血液浄化装置④除細動装置⑤閉鎖式保育器⑥診療用放射線照射装置の各医療機器において年間 2 回以上の研修会を実施した。当該医療機器の使用に携わる医療従事者を名簿により把握し、研修会への参加を促した。研修内容は当該医療機器を主に使用する当院職員（看護師・臨床工学技士）による講習会や、製造販売業者による取扱い説明なども実施した。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (有) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 保守点検計画策定対象機は①人工心肺装置及び補助循環装置②人工呼吸器③血液浄化装置④除細動装置⑤閉鎖式保育器⑥C T X線装置⑦診療用放射線照射装置で特に臨床工学技士に係る医療機器については医療機器管理システムにて日常点検をはじめ、定期点検の管理及び日常の医療機器の使用状況の確認を行っている。同様にその他の院内で多く使用する輸液・シリンジ・経腸栄養ポンプ、電気メス、低圧持続吸引器、体外式ペースメーカー、体外式除細動装置なども医療機器管理システムにて日常点検、定期点検を含め中央管理している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 機器名 ドクターアラビンペッサリー 使用事例 子宮頸管短縮を伴う切迫早産に対する子宮頸管ペッサリー使用 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の不具合・副作用があった場合には院内のインシデント管理システムから報告できるようにした。 PMDAからのクラス I の回収情報は関係部署と連携を取り当該医療機器の使用状況・使用患者情報の収集及び対応策の検討を行い医療安全管理部門及び病院管理者へ報告を実施した。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
・責任者の資格（<u>医師</u>・歯科医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、及び医療機器安全管理責任者の統括状況 病院長から任命を受けた副院長（医療安全担当）が医療安全管理責任者、医療安全推進センター長、医療安全管理委員会委員長を務め、医療安全推進センターを兼務する医薬品安全管理責任者、及び医療機器安全管理責任者を統括している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（8名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ○電子カルテ上に「薬剤部」のページを作り、その情報を更新。 （厚労省関連情報、医薬品情報、薬剤部関連情報、PMDA 関連情報等） ○院内の各部署、診療科より代表者メールを管理し、メーリングリストを作成し配信。 ○庶務課を介し、院内の各部署、診療科へ書面を作成し配布。 ○緊急性の高い緊急安全性情報、安全性速報については情報入手後、前記2ルート（メール配信、書面での配布）と共に、電子カルテ薬剤部ページへの掲載。並びに、過去3か月に遡り対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面に注意喚起を行う。 ○医薬品・医療機器等安全性情報に掲載された「重要な副作用等に関する情報」についても同様に過去3か月に遡り、対象医薬品を処方した医師を抽出し個々の医師宛て書面に注意喚起を行う。また、薬事委員会で報告する。 ○医薬品の回収命令については、医療安全管理責任者（医療安全推進センター）を経由して病院長へ報告。 ○自主回収、製造販売中止などの情報入手時は、院内配置在庫の回収、薬剤部在庫の確認を随時実施する。 ○採用医薬品については3年毎に「医薬品集」を発行し院内医療職へ配布。その間は1年ごとに追補版を作成し配布。 ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 ○未承認新規医薬品評価委員会の開催。 ○モニタリング 初回（1症例目）実施時及びその後定期的（6ヶ月毎）に承認後の実施状況報告を求め、	

病院長に報告。

○委員会が審査を行った申請に関する審査資料の管理。

・担当者の指名の有無 (有・無)

・担当者の所属・職種：

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：医師) 3名

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：薬剤師) 3名

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：看護師) 3名

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：臨床工学技士) 1名

(所属：新規医療技術等管理部門 職種：事務) 4名

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：平成28年9月1日付けでインフォームド・コンセント責任者（以下、「責任者」という。）、各部門等にインフォームド・コンセント担当者を配置した。また、平成31年1月1日付けで責任者が委員長を務めるインフォームド・コンセント委員会（以下、「IC委員会」という。）を設置し、各診療科等が作成するインフォームド・コンセントに必要な説明書、同意書、説明用補助資料の内容が、病院が定める所定様式、又は説明に必須となる事項等の基準を満たしているかなど、一元的に審査・管理する体制を構築した。IC委員会では、承認後の説明・同意の状況について、当院が規定する手順に沿って適切な説明が行われているかの遵守状況を電子カルテ上で2ヶ月毎にモニタリングし、適切でない事例が認められた場合は当事者に対して必要な指導を行うとともに、ケースに応じて院内通知又は研修会等で取り扱うなど、周知・徹底に努めている。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ①診療録等の記載内容（質的監査・量的監査）の確認を定期的に行い、診療記録管理委員会で点検結果を報告するとともに、記載内容が十分でない事例が認められた場合は、各部署に周知し改善要請を行う。 ②退院サマリーの作成状況の把握と早期作成の推進。 ③文書の適切なスキャニング及び当該文書の取扱状況（量）の把握。 ③ 紙の診療録等の管理・また適切な保管スペースの確保。	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・所属職員：専従（ 11 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 8 ）名 うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 4 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 3 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 0 ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： ○インシデント・アクシデント・死亡・院内急変情報の収集、分析と改善案の立案に関する事 ○改善策の依頼、助言、実施及び評価に関する事 ○医療事故防止対策マニュアルに関する事 ○職員の医療安全管理に対する意識の向上や指導等に関する事 ○発生した医療事故への対応に関する事 ○医療安全推進のために必要な施策等の調査及び研究に関する事 ○日本医療機能評価機構並びに県内の医療機関と県南健康福祉センター・厚生労働省関東信越厚生局指導監査部門。医療監視との情報交換 ○医療事故等に関する患者及び家族への対応 ○定期的に院内を巡回し、各部門における医療安全対策の状況を把握、分析し、具体的対策を推進すること ○その他医療安全管理に関する事 毎朝、インシデント報告分析支援システムを確認し、不備があればリスクマネージャーに差し戻し、場合によっては電話で状況を確認している。また、状況に応じて事例に関するカンファレンスにも出席して、インシデント防止に努めている。 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（8件）、及び許可件数（8件） ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有・無 ） ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有・無 ） ・活動の主な内容： ○申請書の受付／申請書の不備確認	

○評価委員会の開催通知／審査結果通知等の発送

○承認後のモニタリング

○審査資料等の保管（申請書／実施計画書／議事録／遵守状況の確認記録等）

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（１９件）、及び許可件数（１９件）

・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

・ 活動の主な内容：

○申請書の受付／申請書の不備確認

○評価委員会の開催通知／審査結果通知等の発送

○承認後のモニタリング

○審査資料等の保管（申請書／実施計画書／議事録／遵守状況の確認記録等）

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年５９１件

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年８４件

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

＜所掌業務＞

○医療安全対策の検討及び研究に関すること

○医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること

○医療安全対策のための職員に対する指示に関すること

○医療安全対策のために行う提言に関すること

○医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること

○その他医療安全対策に関すること

《具体的業務》

- インシデント・アクシデント報告書及び問題（又は問題となりうる）事例届を収集し、事例ごとに分類し、さらに発生要因の分析を行い、事故の防止策を検討する。
- 検討を行った医療安全対策を病院長に報告するとともに、職員に周知し、安全策の具体的方策の指示を行う。
- 医療安全対策のための教育及び研修を行う。
- 医療事故安全対策のためのマニュアルを作成する。
- インシデント・アクシデントの報告は、原因分析から安全対策作成のための大きな教訓となることから、これらの情報収集が重要となるが、報告者が不利益を被らないよう配慮する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り（ ☒ （病院名：埼玉医科大学病院） ・ 無）
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ ☒ （病院名：埼玉医科大学病院） ・ 無）
- ・ 技術的助言の実施状況

【指摘事項】

特段なし

【質疑】

- ① 当院では転倒転落アセスメントシートを活用した事故防止に努めていますが、発症事例の減少には及んでいません。転倒転落の改善に関し、具体的な取り組みをお聞かせいただきたい。
- ② 当院では対象者に応じた研修選定に苦慮していることから、リスクマネージャーを対象とした研修の選定基準や効果判定方法について、教えていただきたい。
- ③ 医療安全ラウンドは、医療安全管理委員会と医療安全推進センターで実施されているようですが、相互効果の状況など具体的状況をお聞かせいただきたい。
- ④ インシデント報告においてインシデントレベルに D ランクを設定され当事者以外からの報告を受けられておられますが、当事者や部署へのフィードバックや反応をお聞かせください。
- ⑤ セイフティマネージャー委員会のグループ活動は活発に行われておられますが、具体的な取り組みをお聞かせください。

【応答】

- ① 転倒・転落の対策として、ポータブルトイレの使用を禁止（例外あり）にしています。
睡眠薬が原因の転倒・転落を減少させるために、ワーキンググループで不眠時・不穏時（せん妄を含む）指示を作成し、院内で統一を図っています。
不眠時・不穏時指示の周知方法は、セイフティプラスを活用しました。

- ② セイフティプラスを活用し、コンフリクトマネジメント、事故発生時の対応の受講を必須としました。効果測定は、各動画後に行うテストの可否で確認しました。
- ③ ラウンドの結果を部署に紙面でフィードバックし、返答をいただいています。その後、不定期に再ラウンドし、改善できているか確認しています。
- ④ 当事者に、電話でインシデント報告の入力を依頼し提出いただいています。
当事者の反応によっては、インシデントレポート作成の必要性を説明することもあります。
- ⑤ 心電図モニターやせん妄、薬剤関係、医療機器、ラウンド等について、6グループにわかれて1年間活動します。年1回（2月）に、活動内容の発表を行います。今年度は、動画配信になります。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

病院1階の地域連携・患者サポートセンター医療福祉相談部門内に“患者相談窓口”を設置し、専従の医療ソーシャルワーカーを配置している。患者からの相談内容に応じて、医療安全管理を担う「医療安全推進センター」との連携体制を構築している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

上記「規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置」内「③医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況」のとおり

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

○研修会名；2020年度特定機能病院管理者研修事業

研修日程；令和2年11月25日（水）

受講者；管理者（病院長）

研修日程；令和2年12月24日（木）

受講者；医療安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者

研修日程；令和3年1月20日（水）

受講者；医療機器安全管理責任者

研修日程；令和3年2月4日（木）

受講者；医薬品安全管理責任者

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構

訪問審査受審(一般病院3) : 平成30年9月20日(木)～22日(土)の3日間

認定期間: 2018年11月17日～2023年11月16日(認定JC71-4号)

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

学外には公表していないが、学内には公表している。

・ 評価を踏まえ講じた措置

是正すべき項目については、院内で検討し、改善策を講じ、再審査を受けている。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
- 基準の主な内容 臨床医学の講座主任教授 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者 - 基準に係る内部規程の公表の有無（☒・無） - 公表の方法 規程集に掲載している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有・ ☒
- 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） - 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） - 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） - 公表の方法：https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/hospital/advanced-treatment/				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由(平成30年度時選定委員)令和2年度未実施の為				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
吉田謙一郎	学長	○	学長（規程第7条第1号）	☒ ・無
増田 道明	副学長		副学長（規程第7条第2号）	☒ ・無
平田 幸一	大学病院長		大学病院長（規程第7条第3号）	☒ ・無
岡田 弘	埼玉医療センター 病院長		埼玉医療センター病院 長（規程第7条第4号）	☒ ・無
安 隆則	日光医療センター 病院長		日光医療センター病院 長（規程第7条第5号）	☒ ・無
若松昭豊	事務局長		事務局長（規程第7条 第6号）	☒ ・無

麻生好正	内科学（内分泌代謝）講座主任教授		医学部教授会から選出された臨床医学講座の主任教授（規程第7条第7号）	☒ ・無
窪田敬一	第二外科学講座主任教授			☒ ・無
千田雅之	呼吸器外科学講座主任教授			☒ ・無
太田照男	栃木県医師会長		学長が委嘱する学外有識者（規程第7条第8号）	有・ ☒
海老名英治	栃木県保健福祉部保健医療監		学長が委嘱する学外有識者（規程第7条第8号）	有・ ☒

**規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況**

合議体の設置の有無	○・無		
・合議体の主要な審議内容 病院の管理運営に関する重要事項を審議するため、病院運営委員会を設置し、以下の事項を審議している。 （１） 病院の経営に関する事項 （２） 病院の運営に関する事項 （３） 病院の将来計画に関する事項 （４） 病院の診療体制に関する事項 （５） その他診療に関する事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 毎月、診療部長会・病院連絡会（新型コロナウイルス感染拡大に伴い二か月に一回に変更）を開催し、概要を報告している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ ○・無 ） ・公表の方法 規程集に掲載している。 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ 有・○ ）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
吉田 謙一郎		医師	学長
平田 幸一		医師	副学長
若松 昭豊		事務	事務局長
窪田 敬一	○	医師	病院長
麻生 好正		医師	副院長
吉原 重美		医師	副院長
種市 洋		医師	副院長
釜井 隆男		医師	副院長
本田 雅巳		薬剤	薬剤部長
秋元 ますえ		看護	看護部長
坂本 悦男		事務	事務部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ）
- ・ 公表の方法

規程集に掲載している。

- ・ 規程の主な内容

獨協医科大学病院規程第2条第3項：病院の管理運営をつかさどり、所属職員を統括する。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副院長：医療安全推進、院内感染防止対策、医療物資管理、経営対策

院長補佐：研修医対応、病床管理

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

管理職研修会を毎年開催し、本学の方針に則った共通認識のもと人材育成を図っている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況					有・無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： 大学病院内における医療安全管理業務の執行状況を監査している。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法： ホームページにより公開（https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/hospital/audit/）					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
十川 康広	上都賀総合病院 病院長	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者 その他の学識経験を有する者
菊池 不佐男	菊池法律事務所 弁護士		法律に関する識見を有する者	有・無	医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者 その他の学識経験を有する者
飯島 一彦	下野新聞社 専務取締役		医療を受ける者の代表者	有・無	医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1. に掲げる者を除く。）
美津島 隆	獨協医科大学 リハビリテーション科学 教授		医療に関する学識経験者	有・無	その他
久保田 一徳	獨協医科大学病院 放射線部教授		医療に関する学識経験者	有・無	その他

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1. に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

学園内部監査室による監査の他、定期的な監事監査を実施している。

・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ 無)

・ 公表の方法

規程集に掲載している。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 - 理事会にて管理運営状況を監督している。 ・ 会議体の実施状況（ 年 7 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ 有 ・ 無 ）（ 年 7 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 - 規程集に掲載している。			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無
			有 ・ 無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 通報件数（年〇件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 周知の方法 医療事故防止対策マニュアルへの記載。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	⑦・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 栃木県保健医療計画（7期計画）に基づき、がんの医療、脳卒中の医療、心筋梗塞の医療、糖尿病の医療、救急医療、災害医療、周産期医療及び小児医療を主に地域における当院の役割と基本方針に定め、啓発ポスターの院内掲示やH P、ラジオ等での情報発信をはじめ、他の医療機関関係者並びに地域住民に対して研修会やセミナーを開催している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	⑦・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ハートセンターなど、心臓・血管疾患診療に携わる当院3診療科（心臓・血管内科／循環器内科、腎臓・高血圧内科、心臓・血管外科）の医師が、医療従事者とともに各診療科の枠組みを超え、一致協力して診療を行っており、これまで以上に急性期医療から心臓リハビリテーションに至るまで、質の高い医療を多くの患者様に提供しているほか、近年では糖尿病センター、ロボット手術支援センター及びアレルギーセンターを設置するなど、中央部門に23センターを整備し各診療科が密接な連携を取り、患者さまにより分かりやすく安全な医療を提供するため、積極的なセンター化に取り組んでいる。	